

274  
16



始

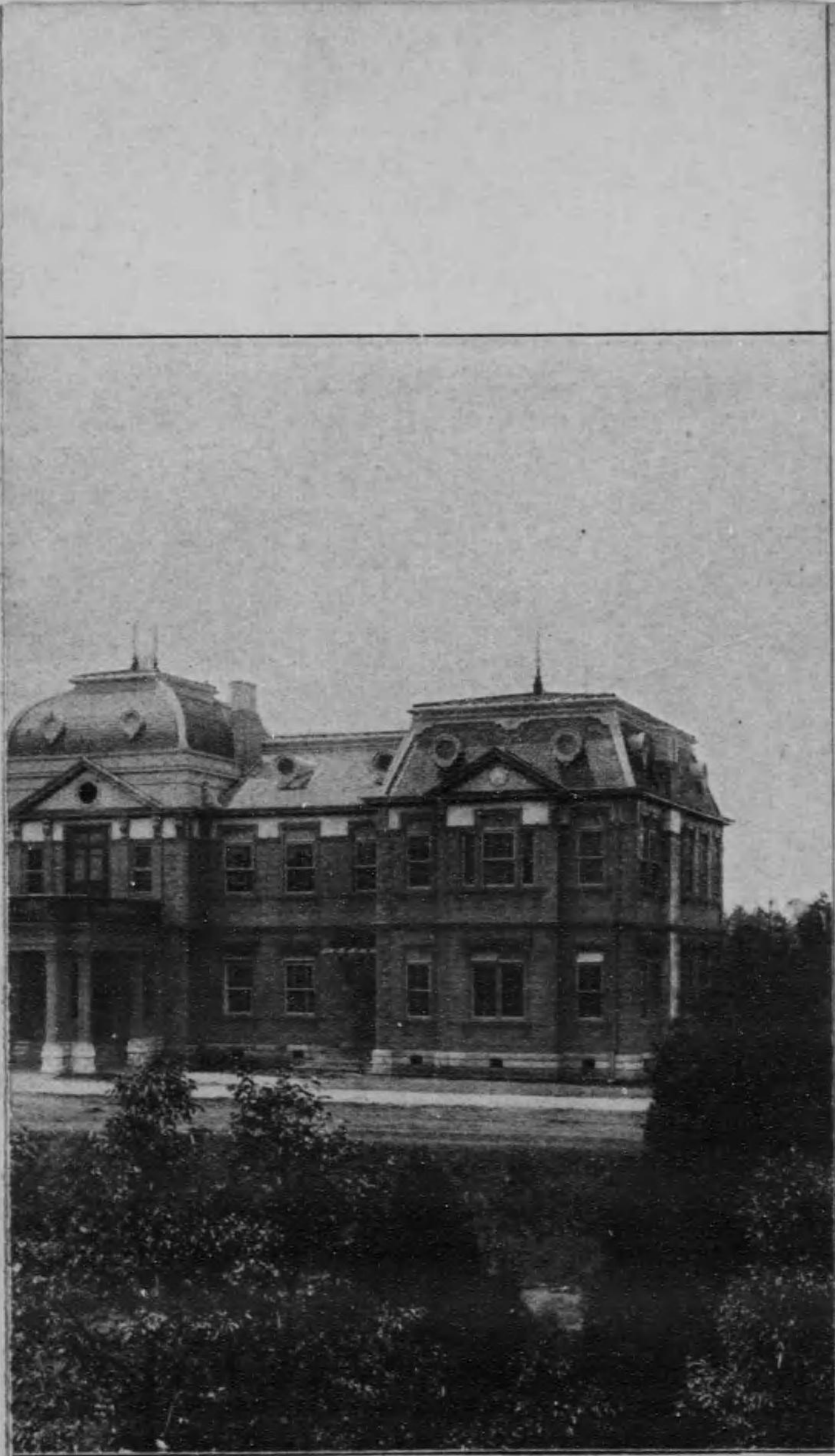




東京高等師範學校一覽

自大正十一年四月  
至大正十一年三月





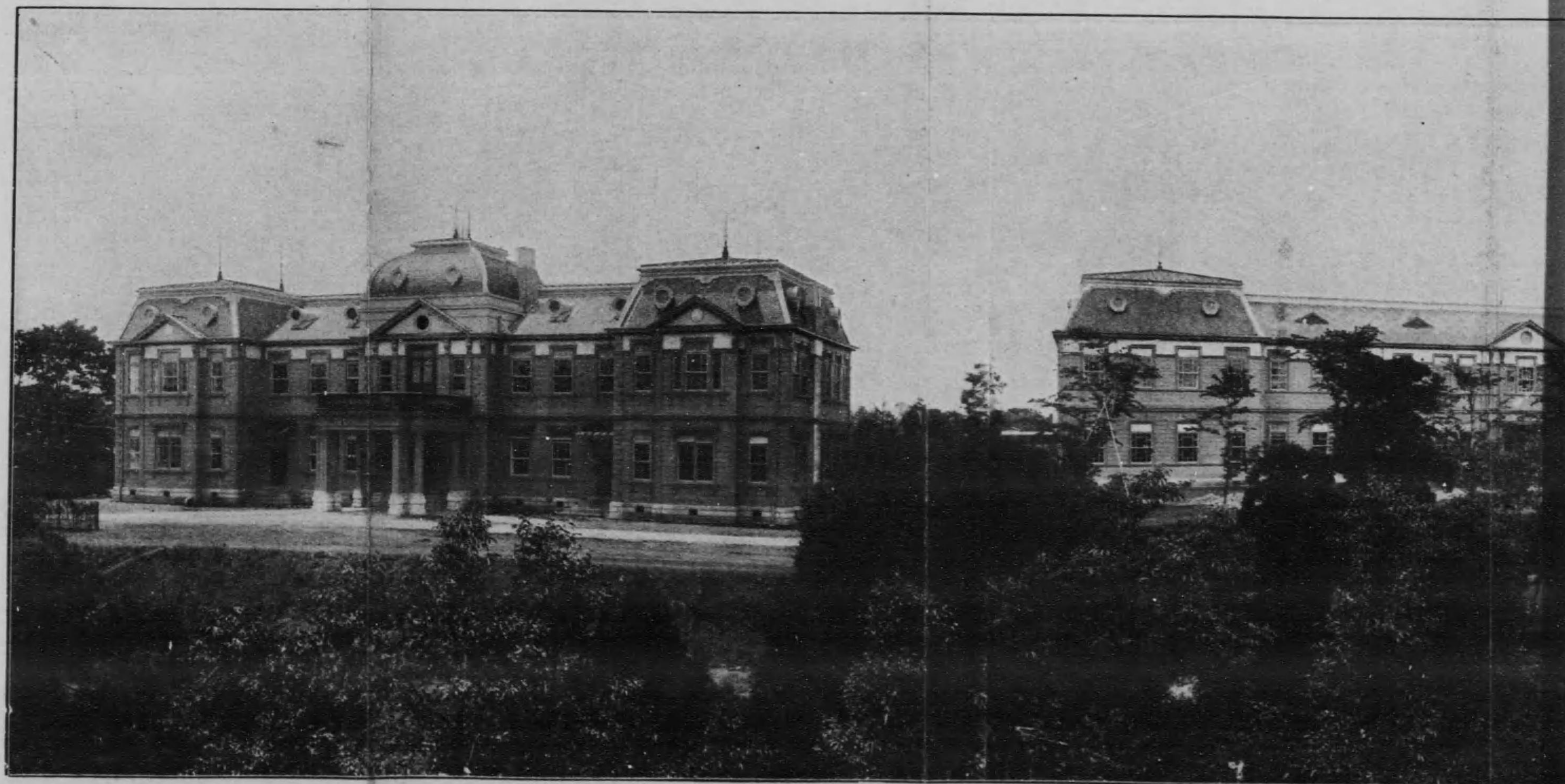
景 前





校 舍 前 景





景 前 舍 校



274-16

東京高等師範學校一覽目次

第一章 學年曆 ..... (一)

第二章 沿革略 ..... (二)

第一 本校沿革略 ..... (三)

第二 附屬學校沿革略 ..... (四)

第三章 法令 ..... (五)

第一 總規  
師範教育令(明治三十年勅令第三百四十六號) ..... (六)

第二 高等師範學校規程(明治二十七年省令第十一號) ..... (七)

第三 高等師範學校商議委員規程(明治二十一年訓令) ..... (八)

第二章 職員

一 文部省直轄諸學校官制(明治二十六年勅令第八十六號) ..... (九)

二 文部省直轄諸學校名譽教授ニ關スル件(大正三年勅令) ..... (十)

10.12.17

目次



第百二十四號	名譽教授ノ待遇ニ關スル件(大正三年勅令第五百十二號)	(八)
	文部省直轄諸學校職員定員令(明治三十五年勅令第九十九號)	(九)
	高等官々等俸給令(明治四十三年勅令第三百三十四號)	(一〇)
	判任官俸給令(明治四十三年勅令第三百三十五號)	(一一)
	奏任文官及判任文官ノ優遇ニ關スル件(大正十年勅令第二百二十三號)	(一二)
	教官及技術官ノ俸給ニ關スル件(大正九年勅令第二百六十二號)	(一三)
	雇外國人使用方(明治二十六年勅令第九十六號)	(一四)
	文部省直轄諸學校長職務規程(明治三十三年訓令)	(一五)
第三 生徒	高等師範學校生徒募集規則(明治三十年省令第十號)	(一六)

二	文部省直轄學校外國人特別入學規程(明治三十四年省令第十五號)	(一七)
三	高等師範學校女子高等師範學校及師範學校入學者身體檢査ニ關スル事項(明治三十五年省令第五號)	(一八)
四	高等師範學校生徒學資支給規程(明治三十六年訓令)	(一九)
五	高等師範學校等卒業者服務規則(大正十年省令第二十九號)	(二〇)
第四章	本校諸規則	
第一	本校諸規程	
一	東京高等師範學校規則	(二一)
二	東京高等師範學校專攻科修身教育部學科課程及每週教授時數	(二二)
三	東京高等師範學校專修科規則	(二三)
四	評議委員會規程	(二四)



五	教授會規程	(二五)
六	學級主任規程	(二六)
七	學科主任規程	(二七)
八	外國學生主任規程	(二八)
九	事務規程	(二九)
一〇	教官心得	(三〇)
一一	生徒學業成績調查內規	(三一)
一二	入學志願者成績調查內規	(三二)
一三	研究會規程	(三三)
一四	三大節拜賀式內規	(三四)
一五	三大節儀式入退場心得	(三五)
一六	講演會規程	(三六)
一七	職員生徒等實地研究旅費規程	(三七)

一八	生徒學資支給規程	(三八)
一九	生徒療養費支給規程	(三九)
二〇	授業費償還ニ關スル事項	(四〇)
二一	生徒獎學規程	(四一)
二二	學資貸與規程	(四二)
二三	生徒服制	(四三)
二四	生徒服裝心得	(四四)
二五	生徒受業心得	(四五)
二六	生徒缺課內規	(四六)
二七	生徒喪假內規	(四七)
二八	生徒會葬內規	(四八)
二九	外國學生受業心得	(四九)
三〇	生徒見學規程	(五〇)



三一	修學旅行內規	(五一)
三二	生徒課業等取締內規	(五二)
三三	物品會計取扱細則	(五三)
三四	日誌材料報告事項內規	(五四)
三五	當直規則	(五五)
三六	非常心得	(五六)
第二 寄宿舍諸規程		
一	寄宿舍規則	(五七)
二	寄宿舍例規	(五八)
三	炊事部規程	(五九)
四	寄宿舍非常警備規程	(六〇)
五	寄宿舍圖書部規程	(六一)
六	販賣部規程	(六二)

第三 圖書館規程		
一	本校圖書館規則	(六三)
第四 附屬學校諸規程		
一	附屬學校規則	(六四)
二	主事職務規程	(六五)
第五章 職員		
一	創立以來ノ職員	(六六)
二	索引	(六七)
三	職員	(六八)
二	現在職員	(六九)
第六章 生徒		
一	本校生徒	



(附錄)

一 現在員數 ..... (七〇)

二 學級編制及出身學校別員數 ..... (七一)

三 出身地方別員數 ..... (七二)

四 生年別員數 ..... (七三)

五 文科理科入學志願者及入學者員數 ..... (七四)

六 生徒氏名 ..... (七五)

第二章 附屬學校生徒及兒童 ..... (七六)

第七章 卒業生

一 五十音別氏名族籍出身學校卒業年月及學科 ..... (七七)

二 卒業年月及學科別氏名並卒業後狀況 ..... (七八)

三 特別學生及外國學生卒業者 ..... (七九)

四 東京高等師範學校卒業生表 ..... (八〇)

第一 大正十年三月本校卒業證書授與式 ..... (八一)

第二 東京高等師範學校校友會 ..... (八二)

第三 弔慰會 ..... (八三)

第四 金曜會 ..... (八四)

第五 東京高等師範學校概覽 ..... (八五)

第六 本校校地及建物略圖



東京高等師範學校一覽

第一章 學年曆

●學年曆

四月一日	學年始
四月八日	附屬學校第一學期授業始
四月十六日	本校第一學期授業始
七月十日	本校第一學期授業終
七月二十日	附屬學校第一學期授業終
九月一日	附屬學校第二學期授業始
九月十一日	本校第二學期授業始
十二月二十四日	第二學期授業終
一月八日	第三學期授業始





三月三十一日 學年終

休業日

春季休業

自四月一日起至四月十五日

(自四月一日附屬學校)

夏季休業

自七月十一日起至九月十一日

(自七月三十一日附屬學校)

冬季休業

自十二月二十五日起至一月七日

創立記念日

十月三十日

祝日

大祭日

日曜日

## 第二章 沿革略

### 第一 本校沿革略

本校ハ始メ師範學校ト稱シ明治五年九月舊昌平校ノ遺跡ヲトシ諸葛信澄校長ニ任セラレ小學校授業ノ方法ヲ授ケシヲ以テ創始トス

同六年二月始メテ附屬小學校ヲ設ケ師範生徒ヲシテ實地授業ノ練習ヲナサシム同年六月授業法ノ外更ニ豫科ヲ設ク同年七月東京師範學校ト改稱ス

同七年四月小學師範學科ノ編制ヲ改メテ豫科本科ノ二科トス同年五月 天皇陛下臨幸アラセラレ各級生徒ノ授業ヲ觀覽シ給ヒ優等生徒ニ書籍ヲ賜ハル

同八年四月校長諸葛信澄大阪師範學校長ニ轉シ教員小澤圭次郎校長心得ニ任セラル同年五月箕作秋坪ニ攝理ヲ囑セラレ校長心得小澤圭次郎校長補ニ任セラル同年八月中學師範科ヲ創設ス

同十年二月秋山恒太郎校長ニ任セラレ箕作秋坪依願解囑セラル

同十一年十月校長秋山恒太郎依願本官ヲ免セラレ伊澤修二校長補ニ任セラレ高嶺秀夫校長補心得ヲ以テ校務ニ參與スヘキ旨ヲ命セラル



同十二年二月全科ヲ大別シテ豫科、高等豫科、本科ノ三科トス同年三月校長補伊澤修二校長ニ任セラレ校長補心得高嶺秀夫訓導兼校長補ニ任セラレ

同十四年六月校長伊澤修二文部少書記官ニ轉シ文部省御用掛西周ニ校務ヲ囑託セラレ同年七月訓導兼校長補高嶺秀夫校長兼教諭ニ任セラレ尋テ文部省新ニ頒布スル所ノ師範學校教則大綱及小學校教則綱領ニ據リテ本校及附屬小學校ノ諸規則ヲ改正シ併セテ中學師範學科ノ規則ヲ改ム

同十五年九月教授法改良ノ目的ヲ以テ府縣ヨリ小學師範學科取調員ヲ召集ス

同十六年五月府縣選舉師範生徒ヲ募集ス

同十八年八月參事院議官兼文部省御用掛森有禮本校監督仰付ラレ西周ノ校務囑託ヲ解カル

同月東京女子師範學校ヲ本校ニ合併セラル該校ハ明治七年三月ノ創設ニ係リ爾後此校ニ附屬セル高等女學校女兒小學校及ヒ幼稚園アリシカ都テ本校所屬トナル此合併ニヨリテ本校ノ組織大ニ釐革スル所アリ同年十月男子師範生徒養成ノ目的及ヒ募集ノ方法ヲ改ム同年十二月體操傳習所ヲ本校ニ附屬セラル

同十九年二月附屬高等女學校ヲ本校ヨリ分離シテ文部大臣官房ニ附屬セラル同年三月陸軍省總務局制規課長陸軍歩兵大佐山川浩校長ニ兼任セラレ校長兼教諭高嶺秀夫本官ヲ免セラ

レ教諭ニ專任セラル同月女子師範生徒養成ノ目的及ヒ募集ノ方法ヲ改ム同年四月勅令第三十五號ヲ以テ高等師範學校官制ヲ定メラレ校長教頭教諭幹事助教諭舍監訓導書記ノ職ヲ置カル是レヨリ高等師範學校ト改稱ス同月附屬體操傳習所ヲ廢シ本校ニ體操專修科ヲ置ク同年五月 天皇陛下臨幸アラセラレ教室寄宿舍及ヒ附屬學校ヲ觀覽シ給フ同年十月文部省令第十七號ヲ以テ本校ノ學科及ヒ其程度同第十八號ヲ以テ本校生徒募集規則ヲ定メラル

同二十年十一月本校學則ヲ定ム

同二十一年九月附屬小學校ノ名稱ヲ附屬學校ト改ム

同二十二年七月東京教育博物館ヲ本校ニ附屬セラル

同二十三年三月勅令第四十二號ヲ以テ本校ヨリ女子部ヲ分離シ女子高等師範學校ヲ置カレ附屬學校ノ女兒小學校及ヒ附屬幼稚園ヲ該校ニ附屬セラル同年十月勅令第二百三十三號ヲ以テ本校官制ヲ定メラル同二十四年七月勅令第三百三十七號ヲ以テ本校官制ニ改正ヲ加ヘラレ勅令第四百四十一號ヲ以テ教官人員ヲ定メラル同年八月校長山川浩依願兼官ヲ免セラレ教授高嶺秀夫校長心得ヲ命セラレ尋テ校長兼教授ニ任セラレ

同二十六年六月勅令第六十二號ヲ以テ東京音樂學校ヲ本校ニ附屬セラレ高等師範學校附屬音樂學校ト稱セラル同年八月勅令第八十六號ヲ以テ文部省直轄諸學校官制ヲ定メラレ校長



一人教授十五人助教三人教諭三人助教諭八人訓導十二人舎監一人書記八人（附屬音樂學校ニ關スル職員ヲ除ク）ヲ置カル同年九月校長兼教授高嶺秀夫依願本官並ニ兼官ヲ免セラレ第一高等中學校長兼文部省參事官嘉納治五郎本校長心得兼勤ヲ命セラル同年同月更ニ本校長ニ任セラル

同二十七年四月省令第十一號ヲ以テ本校規程ヲ定メラル依テ同年七月本校規則ヲ改定ス  
同二十八年四月改定規則ニ基キ國語漢文專修科及ヒ英語專修科（何レモ私費）ヲ設置ス  
同二十九年三月本校附屬學校ノ名稱ヲ改メ附屬尋常中學校並ニ附屬小學校ト稱ス同年五月地理歴史專修科（私費）ヲ設置ス同月勅令第二百廿七號ヲ以テ文部省直轄諸學校ノ職員定員ヲ改正セラレ本校教授十五人ヲ十八人ニ助教授三人ヲ四人ニ訓導十二人ヲ十三人ニ増加セラル同二十年三月第二回國語漢文專修科（私費）ヲ設置ス同年四月勅令第百卅六號ヲ以テ文部省直轄諸學校職員定員第一條ヲ改正セラレ本校教授十八人ヲ二十九人ニ本校助教授四人ヲ五人ニ助教諭八人ヲ九人ニ訓導十三人ヲ十四人ニ舎監一人ヲ二人ニ書記八人ヲ十人ニ改メラル同年七月省令第九號ヲ以テ本校規程（第十二條第二項但書）ヲ追加セラレ同年同月省令第十號ヲ以テ本校生徒募集規則ヲ改定セラル同年同月更ニ臨時官費專修科（國語科、漢文科、英語科、數學科）ヲ設置ス同年八月校長兼文部省參事官嘉納治五郎非職ヲ命セラ

レ山口縣尋常師範學校長河内信朝本校長ニ任セラル同年九月非職本校長兼文部省參事官嘉納治五郎依願本官並ニ兼官ヲ免セラル同月本校規則（第七條第二十條第五十六條）ヲ改正シ本校研究科規則實施要目（第一ノ五項）ヲ追加ス同年十月勅令第三百四十六號ヲ以テ師範教育令ヲ公布セラル同年十一月校長河内信朝文部書記官ニ任セラレ嘉納治五郎本校長ニ任セラル同年十二月省令第二十七號ヲ以テ本校規程（第十條）ヲ改正セラル因テ同年同月本校規則（第三十四條）ヲ改正ス

同三十一年一月校長嘉納治五郎文部省普通學務局長ニ兼任セラル同年四月省令第十一號ヲ以テ本校規程（第二條第三條）ヲ改正セラル因テ同月本校規則（第三條第四條第十條第十一條第十五條第三十三條）ヲ改正ス同年六月校長嘉納治五郎文部省普通學務局長ニ專任セラレ本校教授理學博士矢田部良吉本校長兼教授ニ任セラル

同三十二年三月官費專修科（手工科、體操科、物理學化學科、動物學植物學科、農學地學科）ヲ設置ス同年四月勅令第百十六號ヲ以テ本校附屬音樂學校ヲ東京音樂學校ト改稱セラレ本校ヨリ分離シテ再ヒ獨立セシメラル同月勅令第百十七號ヲ以テ文部省直轄諸學校官制ヲ改正セラレ本校職員ニ助手ヲ加ヘラル同月勅令第百十八號ヲ以テ文部省直轄諸學校職員定員ヲ改正セラレ本校教授二十九人ヲ四十四人ニ助教授五人ヲ九人ニ助手ヲ新設シテ二人



トシ教諭四人ヲ七人ニ訓導十四人ヲ十八人ニ舎監二人ヲ三人ニ書記十人ヲ十二人ニ増加セラレ同年八月本校長理學博士矢田部良吉死亡シ教授後藤牧太本校長事務取扱ヲ命セラレ同月更ニ教授後藤牧太ノ本校長事務取扱ヲ免セラレ伊澤修二本校長ニ任セラル

同三十三年一月省令第一號ヲ以テ本校規程並ニ省令第二號ヲ以テ本校生徒募集規則ヲ改正セラル同月臨時官費專修科生ニ關スル規則並ニ官費專修科規則ヲ改正ス同年三月勅令第十六號ヲ以テ文部省直轄諸學校職員定員ヲ改正セラレ本校助教諭九人ヲ十人ニ訓導十八人ヲ十九人ニ増加セラル同年六月本校規則ヲ改正ス同月更ニ官費專修科(國語漢文科、英語科、數學科)ヲ設置ス同年十二月本校長伊澤修二依願本官ヲ免セラレ教授後藤牧太本校長心得ヲ命セラル

同三十四年一月教授後藤牧太本校長心得ヲ免セラレ文部省普通學務局長澤柳政太郎本校長ニ兼任セラル同年三月本校規則第九章撰科生徒ニ關スル條項ヲ改正ス同月勅令第二十五號ヲ以テ文部省直轄諸學校職員定員ヲ改正セラレ本校教授四十四人ヲ四十七人ニ増加セラル同年五月文部省普通學務局長兼本校長澤柳政太郎兼官ヲ免セラレ非職文部省普通學務局長嘉納治五郎本校長ニ任セラル同月更ニ官費專修科(國語漢文科、英語科)ヲ設置ス

同三十五年二月省令第五號ヲ以テ入學志望者身體檢查ニ關シ入學セシムヘカラサル事項ヲ

定メラル同年三月勅令第九十八號ヲ以テ直轄諸學校官制中改正ヲ加ヘラレ廣島高等師範學校ヲ置カル、ト共ニ本校ヲ東京高等師範學校ト改稱セラル同月勅令第九十九號ヲ以テ文部省直轄諸學校職員定員令ヲ發布セラレ同時ニ二十六年八月發布セラレタル同定員ニ關スル勅令第八十七號ヲ廢セラレ教授四十七人ヲ五十人ニ教諭七人ヲ十人ニ改メラル同年五月更ニ官費專修科(修身體操科、地理歴史科、物理學化學科)ヲ設置ス同年八月省令第十三號ヲ以テ高等師範學校規程中研究科ニ關スル事項ニ改正ヲ加ヘラル因テ同年九月本校規則中同事項ニ改正ヲ加フ同年十二月省令第十號ヲ以テ高等師範學校生徒募集規則ニ改正ヲ加ヘラル

同三十六年一月省令第一號ヲ以テ高等師範學校學科規程ヲ改正セラレ同年三月之ニ伴フ本校規則ヲ改正ス同月本校規則中撰科ノ授業料ヲ改ム同年四月小石川區大塚窪町ノ新築校舍ニ移轉ス同年四月省令第二十號ヲ以テ高等師範學校規程中研究科官費生入學資格ニ改正ヲ加ヘラル因テ同月本校規則中同事項ヲ改正ス同年六月更ニ官費專修科(修身教育科、英語科)ヲ設置ス同年八月更ニ官費專修科(數學科)ヲ設置ス同年十一月省令第三十五號ヲ以テ高等師範學校卒業生服務規則中第一條第二條ニ改正ヲ加ヘラル同年十二月勅令第二百三十號ヲ以テ文部省直轄諸學校官制中高等師範學校ノ專任舎監ヲ削リ舎監ノ名稱ヲ生徒監ト改



メ同月勅令第二百三十一號ヲ以テ文部省直轄諸學校職員定員令中改正ヲ加ヘラレ東京高等師範學校ノ項舎監ノ欄三人ヲ削リ書記ノ欄十二人ヲ十一人ニ改メラル同月訓令ヲ以テ明治三十七年四月以後ニ入學スル豫科、本科及研究科生徒ニ支給スヘキ學資ニ關スル規程ヲ定メラル

同三十七年四月初メテ本校豫科ニ給費生(全部、一部ノ二種)ノ外自費生ノ入學ヲ許可ス同三十八年三月勅令第九十七號ヲ以テ文部省直轄諸學校職員定員令中改正ヲ加ヘラレ本校教授五十人ヲ五十一人ニ助教諭十一人ヲ八人ニ改メラル

同三十九年一月官費專修科(文科兼修體操科、圖畫手工科)ヲ設置シ同年十二月更ニ專修科(文科兼修體操科、農業植物科)(何レモ私費)ヲ設置ス

同四十年六月勅令第二百四十六號ヲ以テ文部省直轄諸學校官制ヲ改正セラレ職員名稱中ニ生徒監ヲ加ヘ奏任教官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補スルノ制ニ改メラル同月勅令第二百四十七號ヲ以テ文部省直轄諸學校職員定員令中改正ヲ加ヘラレ東京高等師範學校ノ項教授五十一人ヲ五十二人ニ改メラル同年十一月專修科(數學科、圖畫手工科)(何レモ私費)ヲ設置ス同四十一年三月勅令第六十九號ヲ以テ文部省直轄諸學校職員定員令中改正ヲ加ヘラレ本校訓導十九人ヲ二十一人ニ改メラル同年十二月專修科(文科兼修體操科)ヲ設置ス

同四十二年四月勅令第八十八號ヲ以テ文部省直轄諸學校職員定員令中改正ヲ加ヘラレ本校訓導二十一人ヲ二十二二人ニ改メラル

同年十二月文部省令第二十五號ヲ以テ高等師範學校卒業生服務規則ヲ定メラル

同四十三年三月勅令第六十七號ヲ以テ文部省直轄諸學校職員定員令中改正ヲ加ヘラレ本校教授五十二人ヲ四十九人ニ本校書記十一人ヲ十人ニ改メラル

同年八月專修科(文科兼修體操科、圖畫手工科)(何レモ私費)ヲ設置ス

同年十月文部省令第二十四號ヲ以テ高等師範學校規程中倫理ヲ修身ト改正セララル

同四十四年三月勅令第七十三號ヲ以テ文部省直轄諸學校職員定員令中改正ヲ加ヘラレ本校教授四十九人ヲ五十一人ニ助教諭九人ヲ十人ニ改メラル

同年四月本校規則第六章學業成績調査及卒業ニ關スル條項ヲ改正セララル

同年同月省令第十九號ヲ以テ高等師範學校規程中專攻科ニ關スル事項ヲ加ヘラレ同年同月之ニ伴ヒテ本校規則並ニ生徒學資支給規程及授業費償還ニ關スル事項中改正ヲ加ヘラレ又高等師範學校卒業生服務規則中改正ヲ加ヘラレ

同年同月專攻科(修身漢文部)ヲ新設ス

同年七月專修科(數學科)(私費)ヲ設置ス



同年十月本校創立四十年記念式ヲ舉行シ 天皇陛下御名代トシテ 皇太子殿下行啓アラセラレ式場ニ於テ普通教育ニ關スル左ノ御沙汰書ヲ文部大臣ニ授ケサセ給ヒ式後本校各館、劍道、柔道、體操、附屬中學校、附屬小學校兒童學藝會及茗溪會等ヲ御巡覽アラセラル

御沙汰書

健全ナル國民ノ養成ハ普通教育ノ振興ニ俟ツ其ノ局ニ當ル者益々勵精セヨ

同四十五年三月專攻科(英語部)ヲ設置ス

同年三月本校規則第五章休學ニ關スル條項中改正ヲ加ヘラル

同年五月本校規則第八章專攻科ノ條項中改正ヲ加ヘラル

同年五月勅令第三百三十號ヲ以テ文部省直轄諸學校職員定員令中改正ヲ加ヘラレ本校教授五十一人ヲ五十二人ニ教諭十人ヲ十一人ニ助教諭十人ヲ十一人ニ助教諭八人ヲ七人ニ訓導二十二人ヲ二十四人ニ改メラル

同年七月本校規則第六章學業成績調査及卒業ニ關スル條項中改正ヲ加ヘラル

同年七月文部省令第十七號ヲ以テ高等師範學校生徒募集規則中改正ヲ加ヘラル

大正二年二月專修科(體操科)(私費)ヲ設置ス

同年六月勅令第八十三號ヲ以テ文部省直轄諸學校職員定員令中改正ヲ加ヘラレ本校教授

五十二人ヲ四十九人ニ改メラル

同三年四月專修科(體操科)(私費)ヲ設置ス

大正四年二月文部省令第四號ヲ以テ高等師範學校規則中改正ヲ加ヘラレ同年同月之ニ伴ヒテ本校規則ヲ改正ス

同年六月勅令第二百二十二號及第二百二十三號ヲ以テ文部省官制並ニ文部省直轄諸學校官制中改正ヲ加ヘラレ附屬東京教育博物館ヲ文部省普通學務局ニ屬セラル

同年同月勅令第二百二十四號ヲ以テ文部省直轄諸學校名譽教授ニ關スル事項ヲ定メラル

同年八月勅令第五百五十二號ヲ以テ文部省直轄諸學校名譽教授ノ待遇ヲ定メラル

同年八月勅令第七十號ヲ以テ文部省直轄諸學校職員定員令中改正ヲ加ヘラレ本校教授四十九人ヲ四十八人ニ訓導二十四人ヲ二十五人ニ改メラル

同年十二月勅令第二百三十六號ヲ以テ文部省直轄諸學校職員定員令中改正ヲ加ヘラレ本校訓導二十五人ヲ二十六人ニ改メラル

同五年一月文部省令第一號及第二號ヲ以テ高等師範學校生徒募集規則並ニ高等師範學校卒業者服務規則中改正ヲ加ヘラル

同年十二月勅令第二百六十四號ヲ以テ文部省直轄諸學校職員定員令中改正ヲ加ヘラレ本校



訓導二十六人ヲ二十七人ニ改メラル  
 同六年六月勅令第六十號ヲ以テ文部省直轄諸學校職員定員令中改正ヲ加ヘラレ本校訓導二十七人ヲ二十九人ニ改メラル  
 同七年四月專攻科(修身教育部)ヲ設置ス  
 同年五月本校規則第四章學科課程及每週時數表中體育科ニ關スル分改正ヲ加ヘラル  
 同年七月勅令第二百八十六號ヲ以テ文部省直轄諸學校職員定員令中改正ヲ加ヘラレ本校教授四十八人ヲ五十一人ニ助教授十一人ヲ十二人ニ訓導二十九人ヲ三十一人ニ改メラル  
 同八年四月專修科(圖畫手工科)(私費)ヲ設置ス  
 同年同月專攻科(修身教育部)ヲ設置ス  
 同年十二月勅令第四百八十七號ヲ以テ文部省直轄諸學校職員定員令中改正ヲ加ヘラレ本校教授五十一人ヲ五十四人ニ助教授十二人ヲ十三人ニ助手二人ヲ三人ニ改メラル  
 同九年一月本校長嘉納治五郎依願本官ヲ免セラレ教授三宅米吉本校長兼教授ニ任セラル  
 同年四月專攻科(修身教育部)ヲ設置ス  
 同年五月勅令第八十號ヲ以テ文部省直轄諸學校職員定員令中改正ヲ加ヘラレ本校教授五十四人ヲ五十六人ニ助教授十三人ヲ十四人ニ改メラル

同十年二月文部省令第十號ヲ以テ高等師範學校規程第一條中改正ヲ加ヘラレ同年四月之ニ伴ヒ本校規則第二條中ニ改正ヲ加フ  
 同年四月專攻科(修身教育部)ヲ設置ス  
 同年四月文部省令第二十九號ヲ以テ高等師範學校等卒業生服務規則ヲ定メラル  
 同年四月勅令第七十號ヲ以テ文部省直轄諸學校職員定員令中改正ヲ加ヘラレ本校教授五十六人ヲ五十七人ニ改メラル



## 第二 附屬學校沿革略

明治五年九月師範學校ヲ設置セラレ同六年二月師範生徒實地練習ノ爲メニ附屬小學校ヲ設置ス當時單ニ下等小學ノ課程ノミヲ設置セシカ同年五月ヨリ更ニ上等小學ノ課程ヲ増設ス同年七月本校ヲ東京師範學校ト改稱セラル

同七年一月下等小學教則ヲ改定ス同年五月 天皇陛下臨幸アラセラレ生徒ノ授業ヲ觀覽シ給ヒ優等生徒ニ書籍ヲ賜ハル

同十年八月下等小學教則ヲ改定ス

同十二年十月大ニ教科ヲ改定ス此ノ時ヨリ上等小學第六級以上ニ隨意科トシテ英文又ハ漢文ヲ課スルコト、ナシタリ

同十五年三月文部省改定ノ小學教則綱領ニ基キ小學科ヲ初等中等高等ノ三等ニ分チ教則ヲ改定ス

同十八年八月東京女子師範學校本校ニ合併セラレ同時ニ高等女學校女兒小學校並ニ幼稚園ヲ當校ニ合併セラル

同十九年二月附屬高等女學校文部大臣官房ニ附屬セラル同年三月小學科ヲ尋常高等ノ二科

トシ一年一學級ノ編制トナセリ同年五月 天皇陛下臨幸アラセラレ授業ヲ觀覽シ給フ同年十月更ニ級名ヲ廢シ一ノ組ヨリ九ノ組ニ至ル迄男女兒格別ニ組別トナス同年四月本校ヲ高等師範學校ト改稱セラル

同二十年二月單級教場ヲ設置ス同年四月小學校男女兒生徒ヲ各別ニ年級制ニ改ム

同二十一年九月當校ヲ附屬學校ト改稱シ教科ヲ尋常小學科(修業年限四年)高等小學科(修業年限二年)尋常中學科(修業年限六年)ト改定シ新タニ尋常中學科ヲ設ク

同二十二年高等小學科ノ修業年限ヲ四箇年ニ改定シ男兒生徒ハ高等小學科二箇年ノ課程ヲ終リタル後直チニ尋常中學科ニ入ルコトヲ得シム

同二十三年四月本校女子部ヲ分離シテ更ニ女子高等師範學校ヲ置カレ女兒小學科及ヒ幼稚園ハ同校ニ附屬シ當校ヨリ分離ス同月當校舍ヲ神田區一ツ橋通町元東京高等女學校跡ヘ移ス

同二十五年九月教授細目ヲ制定シテ之ヲ實施ス

同二十六年三月尋常中學科卒業生八名ニ卒業證書ヲ授與ス之ヲ當校尋常中學科第一回ノ卒業生トス同年五月尋常中學科補習科ヲ設置ス

同二十九年一月改定教則ヲ實施ス此ノ時ヨリ尋常中學校修業年限ヲ五箇年ニ改メ小學科ヲ



第一部第二部及ヒ第三部ニ分ツ同年四月附屬小學校第三部ニ高等小學科ヲ設ク同年十二月尋常中學校ヲ分離シ本校構内ニ移シテ附屬尋常中學校ト改稱シ小學科ヲ附屬小學校ト改稱ス

同三十年一月附屬小學校第二部尋常小學科ヲ創設ス同年四月附屬小學校第二部高等小學科ヲ創設ス

同三十二年三月附屬學校主事職務假規程ヲ定メ同年四月附屬尋常中學校ヲ附屬中學校ト改稱シ同年六月附屬學校規則中ノ一部ヲ改正ス

同三十四年三月附屬學校規則ヲ改正ス

同三十五年一月及ヒ二月ノ兩度附屬學校規則中ノ一部ヲ改正ス同年三月本校ヲ東京高等師範學校ト改稱セラル同年六月附屬學校規則ニ改正ヲ加ヘ附屬小學校第三部ニ手工科ヲ課スルコトトセリ

同三十六年四月附屬學校規則中授業料ニ關スル事項ヲ改定ス同月附屬小學校教授細目ヲ改正シテ之ヲ實施ス同月附屬中學校ヲ舊本校々舎ニ移ス

同三十七年三月附屬小學校第三部校舎ヲ本校構内(小石川區大塚窪町)ニ移ス同年四月附屬小學校第三部ニ於テ二部教授ヲ開始シ尋常單級ヲ二部ニ分チ教授ス

同三十七年九月附屬小學校第三部ニ於ケル二部教授ノ編制ヲ改メ尋常單級ヲ舊ニ復シ別ニ尋常一學年ヨリ高等二學年ニ至ル六學年ヨリ成レル學級ヲ設置シテ之ヲ二部ニ分チ九月ヨリ之ヲ實施ス

同三十八年三月附屬中學校教授細目成ル同年同月附屬小學校第三部ヲ本校構内新築校舎ニ移ス同月ヨリ高等單級ヲ當分休止ス同年七月何ノ上附屬小學校第一部教科課程中假ニ手工科ヲ加フ

同四十年三月附屬小學校教授細目成ル同月附屬小學校第三部ヲ本校構内舊第三部校舎ニ移ス同月附屬小學校第三部尋常單級ニ高等科ヲ併置シ六箇年修業ニ改ム同年五月附屬學校規則中特ニ附屬小學校ニ關スル部分ニ改正ヲ加フ同年七月附屬中學校教授細目ヲ改訂ス

同年十一月附屬小學校第三部ニ補習科ヲ設置ス

同四十一年四月附屬學校規則ヲ改正實施ス同年五月附屬學校主事職務規程ヲ定ム同年十一月附屬小學校第三部ニ特別學級ヲ設置ス

同四十二年三月附屬小學校第一部及第二部ヲ本校構内(小石川區大塚窪町)ノ新築校舎ニ移ス

同四十三年一月附屬中學校教授細目ヲ改訂ス



同年七月附屬中學校ヲ本校構内ノ新築校舍ニ移ス  
 同四十四年四月附屬學校規則中夏期休業ノ期間及中學校ノ授業料ニ關スル部分ヲ改正ス  
 同年四月附屬學校主事職務規程中改正ス  
 同年十月 天皇陛下御名代トシテ 皇太子殿下行啓アラセラレ附屬中學校及附屬小學  
 校兒童學藝會等ヲ御巡覽アラセラル  
 同四十五年三月附屬中學校第三部ニ於ケル六箇學年編制ニ部教授ヲ改メテ二級編制ノ尋常  
 小學校トナシ又在來ノ特別學級ニ更ニ一學級ヲ増設シテ二級編制ノ補助學校トナス  
 同年四月附屬學校規則ノ一部ヲ改正實施ス  
 大正二年三月附屬中學校兒童ノ定員及ヒ學級編制ニ關スル規則ノ一部ヲ改正實施ス  
 同年同月第二部高等科女兒ノ學級ヲ休止シ尋常一學年男女兒單式學級ヲ設ク  
 同二年四月附屬中學校校務規程ヲ改正シ生徒訓育ニ關スル内規ヲ修正ス  
 同年六月第三部補習科ニ於テ在來ノ男兒夜間教授ヲ廢シ女兒晝間教授トス  
 同四年三月附屬學校規則中小學校規則ノ一部ヲ改正實施ス  
 同年九月第三部補習科ヲ改メテ女子高等小學校トス  
 同五年四月附屬學校規則ノ一部ヲ改正實施ス  
 同六年四月附屬學校規則ノ一部ヲ改正實施ス

同九年四月附屬學校規則ノ一部ヲ改正實施ス  
 同年九月附屬學校規則ノ一部ヲ改正實施ス



### 第三章 法令

#### 第一 總規

##### 一 師範教育令

●師範教育令 (明治三十年十月六日勅令第三百四十六號)

- 第一條 高等師範學校ハ師範學校中學校及高等女學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス
- 女子高等師範學校ハ師範學校女子部及高等女學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス
- 師範學校ハ小學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス
- 前三項ニ記載シタル學校ニ於テハ順良信愛威重ノ徳性ヲ涵養スルコトヲ務ムヘシ
- 第二條 高等師範學校及女子高等師範學校ハ東京ニ各一校ヲ設置シ師範學校ハ北海道及各府縣ニ各一校若クハ數校ヲ設置ス
- 第三條 高等師範學校及女子高等師範學校ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ師範學校ハ地方長官ノ管理ニ屬ス
- 第四條 師範學校ノ經費北海道及沖繩ヲ除クハ府縣稅又ハ地方稅ノ負擔トス

第三章 法令 第一 總規 一 師範教育令

明治三十四年  
法律第三十四號  
ヲ以テ  
女子高等師範學校  
ヲ設置ス

明治三十五年  
勅令第九十八號  
ヲ以テ  
高等師範學校  
及女子高等師範學校  
ノ設置  
ノ事







第四條 高等師範學校ノ學科ハ師範學校ノ課程ニ照ラシ更ニ一層精深ナル程度ニ於テ教授スルモノトス

第五條 高等師範學校ニ研究科ヲ置クコト得(三十三年省令第一號三十五年省令第十號三十四年省令第四號ヲ以テ改正)

第六條 體育科教育科及研究科ノ修業年限學科目等ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ學校長之ヲ定ム(三十三年省令第一號大正四年省令第四號ヲ以テ改正)

第七條 上級生徒ハ附屬學校ニ於テ實地授業ニ從事セシム(同上削除)

第八條 生徒在學中懲戒ニ依リ退學ヲ命セラレタル者及自己ノ便宜ニ因リ退學ヲ願フ者ハ支給セラレタル學資及授業費ヲ償還スヘシ

文部大臣ハ其情狀ニ依リ前項償還スヘキ學資及授業費ノ全部若クハ一部ヲ免除スルコトアルヘシ(明治四十二年省令第二十六號ヲ以テ改正)

第九條 生徒在學中疾病ニ罹リ若クハ學業進マス又ハ品行修マラサルカ爲ニ成業ニ適セスト認ムルトキハ學校長ヨリ退學ヲ命スヘシ(同上改正大正四年省令第四號ヲ以テ削除)

第十條 研究科ニ入學スヘキ者ハ本科及專修科ノ卒業生ニ就キ學校長ニ於テ選擇シ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ命ス但私費ヲ以テ入學セント欲スル者ハ本文ノ者ニアラサルモ入學

ヲ許可スルコトアルヘシ(三十年省令第二十七號三十二年省令第一號三十四年省令第二十號ヲ以テ改正)

第十一條 高等師範學校ニ專攻科ヲ置クコトヲ得 專攻科ノ修業年限學部及其科目ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ學校長之ヲ定ム

前條ノ規定ハ專攻科ニ關シ之ヲ準用ス(三十三年省令第一號削除四十一年省令第十九號ヲ以テ改正)

第十二條 師範學校中學校高等女學校ノ教員ノ闕乏ヲ充タス爲ニ特別ノ必要アル場合ニ於テハ專修科ヲ置クコトヲ得(同上) (四十一年省令第三十號ヲ以テ本條第二項削除)

第十三條 師範學校中學校高等女學校ノ教員タルノ志望ヲ有スル者ニシテ本科又ハ專修科中ノ一科目若クハ數科目ヲ選ヒテ學修セントスル者ハ撰科生トシテ入學セシムルコトヲ得(三十三年省令第一號四十四年省令第十九號ヲ以テ改正)

第十四條 撰科生徒ノ在學期限ハ二箇年以上四箇年以下トス(三十四年省令第七號四十四年省令第十九號ヲ以テ改正)

第十五條 明治十九年文部省令第十七號中男子師範學科ニ關スル規定ハ之ヲ廢ス







長崎高等商業學校  
 山口高等商業學校  
 小樽高等商業學校  
 名古屋高等商業學校  
 第一高等學校  
 第二高等學校  
 第三高等學校  
 第四高等學校  
 第五高等學校  
 第六高等學校  
 第七高等學校  
 第八高等學校  
 新潟高等學校  
 松本高等學校  
 山口高等學校  
 松山高等學校  
 水月高等學校  
 山形高等學校  
 佐賀高等學校  
 弘前高等學校

松江高等學校  
 千葉醫學專門學校  
 岡山醫學專門學校  
 金澤醫學專門學校  
 長崎醫學專門學校  
 新潟醫學專門學校  
 富山醫學專門學校  
 東京高等工業學校  
 大阪高等工業學校  
 京都高等工業學校  
 名古屋高等工業學校  
 熊本高等工業學校  
 米澤高等工業學校  
 桐生高等工業學校  
 橫濱高等工業學校  
 廣島高等工業學校  
 金澤高等工業學校  
 仙臺高等工業學校  
 明治專門學校  
 秋田鐵山專門學校



神戸高等商船學校

東京外國語學校

東京美術學校

東京音樂學校

東京盲學校

東京聾啞學校

第二條 高等師範學校ニ附屬中學校及附屬小學校ヲ置ク(明治三十二年勅令第一百七十七號三十五年勅令第九十七號大正三年勅令第二百二十三號ヲ以テ改正)

第六條 文部省直轄諸學校ニ左ノ職員ヲ置ク(明治四十年勅令第二百四十六號ヲ以テ改正)

校長

教授

生徒監

助教

書記

第七條 校長ハ勅任又ハ奏任トス文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス(明治三十二年勅令第一百七十七號ヲ以テ改正)

第八條 教授ハ勅任又ハ奏任トシ助教教授ハ判任トス生徒ノ教育ヲ掌ル(明治四十年勅令第二百四十六號ヲ以テ改正)

第九條 生徒監ハ奏任教官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

生徒監ハ校長ノ指揮ヲ承ケ專ラ生徒ノ訓育ヲ掌ル(同上)

第十條 書記ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ従事ス(同上)

第十一條 高等師範學校ニ第六條職員ノ外左ノ職員ヲ置ク(同上)

教諭

助教諭

訓導

第十二條 教諭ハ奏任トシ助教諭ハ判任トス附屬中學校及附屬高等女學校生徒ノ教育ヲ掌ル兼テ師範生徒ノ實地授業ヲ監督ス(同上)

第十三條 訓導ハ判任トス附屬小學校生徒ノ授業ヲ掌ル兼テ師範生徒ノ實地授業ヲ監督ス

第十四條 高等師範學校ニ助手ヲ置ク判任トス教授ノ指揮ヲ承ケ授業及實驗ノ補助ニ従事ス(明治三十二年勅令第一百七十七號ヲ以テ改正)

第十七條 專任教官中其ノ學校所設ノ某學科ヲ擔任スヘキ者ヲ得サル場合ニ於テハ兼任教官ヲ置キ若クハ學校長ニ於テ特ニ文部大臣ノ許可ヲ得テ臨時ニ講師ヲ囑託シ其ノ學科ノ授業ヲ擔任セシムルコトヲ得



第十八條 文部大臣ハ高等師範學校(中略)教官ノ中ヨリ各其ノ附屬學校主事(中略)ヲ命シ其ノ事務ヲ掌ラシムルコトヲ得(大正三年勅令第百二十二號ヲ以テ改正)

第十九條 文部大臣ハ校務上ノ須要ニ依リ學校ニ商議委員會ヲ設クルコトアルヘシ其ノ委員ハ文部大臣之ヲ命ス

二 文部省直轄諸學校名譽教授ニ關スル件

(大正三年六月十九日勅令第百二十四號)

文部省直轄諸學校ノ教育ニ付功勞顯著ナル者ハ文部大臣ノ奏薦ニ依リ名譽教授ノ名稱ヲ與フルコトヲ得

三 名譽教授ノ待遇ニ關スル件

(大正四年八月九日勅令第百五十二號)

帝國大學名譽教授及文部省直轄諸學校名譽教授ハ勅任官ヲ以テ待遇ス



#### 四 文部省直轄諸學校職員定員令

●文部省直轄諸學校職員定員令 (明治三十五年三月二十八日) (勅令第九十九號) (抄出)

文部省直轄諸學校專任職員ノ定員左ノ如シ

東京高等師範學校 (三十六年十二月勅令第二百三十一號三十八年三月勅令第九十七號四十年六月勅令第二百四十七號四十四年三月勅令第七十三號大正二年六月勅令第六十九號四十二年四月勅令第八十八號四十四年三月勅令第六十六號五年十二月勅令第二百六十四號六年六月勅令第六十號七年七月勅令第二百八十六號八年十二月勅令第四百八十七號九年五月勅令第八十號十年四月勅令第七十號ヲ以テ改正)

校長	一	人
教授	五十七	人
教諭	十一	人
助教	十四	人
助諭	七	人
訓導	三十一	人
助手	三	人
書記	十	人

#### 五 高等官々等俸給令

●高等官々等俸給令 (明治四十三年三月二十六日) (勅令第三百三十四號) (抄出)

第三條 高等官ノ官等ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外別表第一表ニ依ル (大正九年八月勅令第二)

第八條 勅任文官ノ俸給ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外左ノ如シ (大正九年八月勅令第二)

(中略)

文部省直轄諸學校長	年俸	一級 五千二百圓
		二級 四千八百圓
		三級 四千五百圓

(下略)

第九條 勅任文官親任式ヲ以テ就任ニシテ五年以上其ノ官ノ最高俸ヲ受ケテ在職シ功績顯著ナル者ニハ特ニ七百圓以内ノ年功加俸ヲ給スルコトヲ得 (大正九年八月勅令第二)

(下略)

第九條ノ二 高等官二等ヲ最高官等トスル勅任文官ニシテ三年以上高等官二等ニ在職シ功績顯著ナル者ハ特ニ高等官一等ニ陞叙スルコトヲ得 (大正九年八月勅令第二)



第十條 (前略)

文部省直轄諸學校教授ニシテ五年以上高等官三等ニ在リ功績アル者ハ二十七人ヲ限リ高等官二等ニ陞叙スルコトヲ得但シ各校二人ヲ超ユルコトヲ得ス

(下略)

第十二條 奏任文官ノ俸給ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外別表第二表各號ノ一ニ依ル(大正九年八月勅令第二百五十七號ヲ以テ改正)

第十三條 別表第二表第一號ニ依ル官ノ官等ハ高等官三等乃至七等(中略)トス(大正九年八月勅令第二百五十七號ヲ以テ改正)

第十四條 別表第二表第一號ニ依ル諸官左ノ如シ(大正九年八月勅令第二百五十七號ヲ以テ改正)

(中略)

文部省直轄諸學校教授

(下略)

第十八條 前數條ノ規定ニ依ルモノヲ除クノ外高等文官ノ年俸ハ別表第四表又ハ第五表ニ依ル(大正九年八月勅令第二百五十七號ヲ以テ改正)

(下略)

第十九條 別表第二表第一號(中略)ニ依ル奏任文官ニシテ五年以上各其ノ官ノ一級俸ヲ受ケテ在職シ功績顯著ナル者ハ特ニ七百圓以内ノ年功加俸ヲ給(中略)スルコトヲ得(大正九年八月勅令第二百五十七號ヲ以テ改正)

(下略)

(第一表)

文武高等官官等表 (抄出)

官職	勅任		奏任							
	親任	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等	九等
文部省			文部省直轄 諸學校校長	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
省			文部省直轄 諸學校教諭	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
部			同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
文			同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上

(第二表)

奏任文官年俸表 (抄出)

級	俸	第一號	第二號	第三號
一	四、五〇〇円	(略之以下同)	(略之以下同)	(略之以下同)



二	級	四、一〇〇
三	級	三、八〇〇
四	級	三、四〇〇
五	級	三、一〇〇
六	級	二、七〇〇
七	級	二、四〇〇
八	級	二、〇〇〇
九	級	一、八〇〇
十	級	一、六〇〇
十	級	一、四〇〇
十	級	一、二〇〇

(第四表) (抄出)

官名	級	俸
文部省直轄諸學校校長	一級	四、五〇〇円
委任タルモノ但シ東京育學校校長東京師範學校校長ヲ除ク	二級	四、一〇〇円
	三級	三、八〇〇円
	四級	三、四〇〇円
	五級	三、一〇〇円

(第五表) (抄出)

官名	級	俸
文部省直轄諸學校教諭	一級	三、一〇〇円
	二級	二、八〇〇円
	三級	二、六〇〇円
	四級	二、四〇〇円
	五級	二、二〇〇円
	六級	二、〇〇〇円
	七級	一、八〇〇円
	八級	一、六〇〇円
	九級	一、四〇〇円
	十級	一、三〇〇円
	十一級	一、二〇〇円
	十二級	一、一〇〇円

### 六 判任官俸給令

●判任官俸給令(明治四十三年三月二十六日勅令第三百三十五號)(抄出)

- 第一條 判任官ノ月俸ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外別表ニ依ル(大正九年八月勅令第二)
- 第四條 判任文官ニシテ一級俸ヲ受ケ五年ヲ超エ事務熟練優等ナル者ハ特ニ二百圓迄ヲ給スルコトヲ得(大正九年八月勅令第二)
- 第五條 判任文官ノ俸給ハ月俸七十五圓未滿ノ者ニ限リ級俸ニ拘ラス適宜ノ金額ヲ定メテ之ヲ支給スルコトヲ得但シ各所定ノ最低俸給額ヲ下ルコトヲ得ス(大正九年八月勅令第二)



(別表)

級	俸	月	額
一級	俸	百六十	圓
二級	俸	百三十五	圓
三級	俸	百十五	圓
四級	俸	百	圓
五級	俸	八十五	圓
六級	俸	七十五	圓
七級	俸	六十五	圓
八級	俸	五十五	圓
九級	俸	五十	圓
十級	俸	四十五	圓
十一級	俸	四十	圓

### 七 奏任文官及判任文官ノ優遇ニ關スル件

(大正十年五月二十一日 勅令第二百二十三號) (抄出)

第一條 高等官官等俸給令別表第二表第一號(中略)及第五表ニ依ル奏任文官ニシテ引續キ五年以上高等官三等ニ在職シ功績顯著ナル者ハ特ニ之ヲ勅任官ノ待遇ト爲スコトヲ得 (下略)

第二條 判任文官ニシテ引續キ五年以上一級俸ヲ受ケテ在職シ事務練熟優等ナル者ハ特ニ之ヲ奏任官ノ待遇ト爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ奏任官ノ待遇ヲ受クル者ノ待遇相當官等ハ高等官六等以下トス  
第一項ノ規定ニ依リ奏任官ノ待遇ヲ受クル者ハ之ヲ主事ト稱ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



八 教官及技術官ノ俸給ニ關スル件(大正九年八月十七日勅令第二百六十二號)(抄出)

第一條 教官ノ俸給ハ其ノ學科目ノ種類又ハ授業時間ノ多少ニ依リ(中略)其ノ最低額以下ヲ給スルコトヲ得

第二條 教官ニシテ他ノ廳ノ教官ヲ兼ヌル者ノ俸給ハ之ヲ分割シテ各廳ヨリ給スルコトヲ得

第三條 教官ノ職務ヲ擔任スル講師又ハ囑託ニハ教官俸給豫算又ハ特定メタル豫算ノ中ヨリ手當ヲ給スルコトヲ得

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(下略)

九 雇外國人使用方(明治二十六年九月九日勅令第九十六號)

帝國大學及文部省直轄諸學校ニ於テ學科教授ノ必要アルトキハ帝國大學總長及直轄諸學校長ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ雇外國人ヲシテ教官ノ職務ニ當ラシムルコトヲ得



一〇 文部省直轄諸學校長職務規程

●文部省直轄諸學校長職務規程(大正二年六月二十三日)  
文部大臣訓令

- 第一條 校長ハ判任官ノ進退ヲ具狀シ及高等官ノ進退ニ付意見ヲ具ヘテ文部大臣ニ稟申スルコトヲ得
- 第二條 校長事故アルトキハ文部大臣ノ許可ヲ經テ高等官ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシムルコトヲ得
- 第三條 左ノ事項ハ校長之ヲ專行スヘシ但シ第六號及第八號ニ關シテハ處分後文部大臣ニ報告スヘシ
  - 第一 教官ノ學科擔任及事務員ノ分課ヲ定ムルコト
  - 第二 規則ノ施行上必要ナル細則ヲ設クルコト
  - 第三 俸給月額八拾五圓以下ノ雇員ノ進退ニ關スルコト(大正九年八月改正)
  - 第四 教官以下ノ内國各地出張ニ關スルコト
  - 第五 教官以下ノ除服出仕請暇ニ關スルコト
  - 第六 講師ノ解囑及其ノ報酬減額ニ關スルコト

第七 經費中ノ目ヲ流用スルコト

第八 三日以内ノ臨時休業ヲ爲スコト

第四條 前條ニ掲ケタルモノ、外文部大臣ノ許可ヲ受ケ之ヲ施行スヘシ



### 第三 生 徒

#### 一 高等師範學校生徒募集規則

●高等師範學校生徒募集規則 (明治三十年七月二十一日) (文部省令第十號)

第一條 高等師範學校文科生、理科生及專修科生ハ師範學校官公立中學校及文部大臣ニ於テ徵兵令第十三條ニ依リ中學校ノ學科程度以上ト認メタル私立中學校ノ卒業生ニシテ身體健全品行方正ナル者ニ就キ當該學校長ノ薦舉ニ依リ高等師範學校長試驗ノ上之ヲ選拔ス但シ高等師範學校長ニ於テ必要ト認メタルトキハ地方長官ノ薦舉ニ依リ試驗ヲ須ヒスシテ之ヲ選拔スルコトヲ得 (四十五年省令第十七號大正五年一月省令第一號ヲ以テ改正)

前項ノ試驗ハ當該學校ノ屬スル地方廳所在地ニ於テ行ヒ東京府ヲ除ク外地方長官之ヲ監督ス (三十三年省令第二號四十五年省令第十七號ヲ以テ改正)

高等師範學校長ハ必要ト認メタルトキハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ第一項ニ規定シタルモノノ外薦舉ニ關スル條件ヲ定ムルコトヲ得 (三十五年省令第十七號追加四十五年省令第十七號ヲ以テ改正)

第一項ニ掲ケタル師範學校及中學校ノ生徒ニシテ當該學校長ニ於テ本條ノ募集ニ依リ入學スヘキ者ノ入學期以前ニ卒業スヘシト認メタル者ハ當該學校ノ卒業生ニ準スルコトヲ

得 (三十五年省令第十號七號ヲ以テ追加)

第二條 高等師範學校文科生、理科生ハ毎年一回專修科生ハ臨時之ヲ募集シ其ノ都度高等師範學校長ニ於テ之ヲ公告ス但シ第一條第一項但書ノ場合ニ於テハ高等師範學校長ハ薦舉ノ期日及員數等ヲ地方長官ニ通知スヘシ (三十三年省令第二號四十五年省令第十七號大正五年一月省令第一號ヲ以テ改正)

第三條 第一條ニ依リ募集スルモノ、外高等師範學校長ハ身體健全品行方正ニシテ學力年齡當該學級ニ相當スル者ヲ募集シ試驗ノ上入學セシムルコトヲ得

第四條 (三十三年省令第二號ヲ以テ削除)

第五條 教育科生、體育科生、私費研究生及撰科生ノ募集ニ關スル規程ハ高等師範學校長之ヲ定メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ (三十三年省令第二號四十五年省令第十七號大正五年一月省令第一號ヲ以テ改正)

附 則

第六條 明治二十七年文部省令第二號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス



二 文部省直轄學校外國人特別入學規程

●文部省直轄學校外國人特別入學規程 (明治三十四年十一月十一日) (文部省令第十五號)

第一條 外國人ニシテ文部省直轄學校ニ於テ其一般學則ノ規程ニ依ラス所定ノ學科ノ一科若ハ數科ノ教授ヲ受ケントスルモノハ外務省在外公館又ハ本邦所在ノ外國公館ノ紹介アルモノニ限リ特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第二條 前條ニ依リ教授ヲ受ケントスル外國人ハ前條ノ紹介ヲ添ヘ帝國大學總長若ハ學校長ニ願出ツヘシ

第三條 帝國大學總長若ハ學校長ニ於テ前條ノ出願ヲ受ケタルトキハ相當ノ學力アリト認メタル者ニ限リ之ヲ許可スヘシ但シ學校ノ設備上差支アル場合ハ此限ニアラス

第四條 本令ノ規定ニ依リ入學シタル外國人ニシテ學科修了ノ證明書ヲ受ケントスルモノニハ試驗ノ上之ヲ附與スヘシ

第五條 本令ノ規定ニ依リ入學シタル外國人ニハ入學試驗料入學料及授業料ヲ徵集セサルコトヲ得

第六條 帝國大學總長及學校長ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ本令ニ關シ必要ナル細則ヲ設クル

コトヲ得

附 則

第七條 本令施行ノ際文部省直轄學校ニ於テ一般學則ノ規定ニ依ラス在學スル外國人ハ本令ニ依リ入學シタルモノト見做ス

第八條 明治三十八年文部省令第十一號文部省直轄學校外國委託生ニ關スル規程ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス



### 三 高等師範學校女子高等師範學校及師範學校

#### 入學者身體檢查ニ關スル事項 (明治三十五年二月二十四日 文部省令第五號)

高等師範學校女子高等師範學校及師範學校ニ於テハ其入學志望者ニシテ左ノ各項ノ一ニ該當スルモノヲ入學セシムヘカラス

- 一 明治三十三年文部省令第四號學生生徒身體檢查規程第五條第一項第七號ノ體格薄弱ニ屬スル者
- 二 精神機能ニ障害アル者
- 三 傳染性眼炎ヲ患フル者又ハ眼鏡ヲ以テ補正スルコト能ハサル近視亂視弱視等ヲ有スル者
- 四 聽官又ハ言語ノ障害著シキ者
- 五 肺結核其他結核ノ諸兆アル者
- 六 心臟瓣膜病ヲ患フル者
- 七 惡性腫瘍、腎臟炎、糖尿病、重症貧血等ヲ患フル者
- 八 修學上ノ妨アル疾病ニ罹リ急治ノ見込ナキ者若ハ他ニ感染ノ虞アル疾病ヲ患フル者

### 四 高等師範學校生徒學資支給規程

(明治三十六年十二月十八日文部大臣訓令、四十二年十二月二十日  
四十四年四月六日及大正七年五月九日九年八月十一日訓令改正)

- 第一條 高等師範學校ニ於テ生徒ニ支給スヘキ學資ハ專攻科生徒ニ在リテハ月額金參拾圓其ノ他ノ生徒ニ在リテハ月額金貳拾五圓トス
- 第二條 學資支給ノ方法及人員ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ學校長之ヲ定ム其ノ變更ヲ爲サントスルトキ亦同シ

附 則

本規程ハ大正九年四月分ヨリ之ヲ適用ス



五 高等師範學校等卒業生服務規則

●高等師範學校等卒業生服務規則(大正十年四月二十六日 文部省令第二十九號)

第一條 本令ハ高等師範學校、女子高等師範學校、臨時教員養成所、東京美術學校圖書師範科及東京音樂學校甲種師範科卒業生ニ適用ス

第二條 卒業生ハ卒業證書受得ノ日ヨリ左ノ期間引續キ教育ニ關スル職務ニ従事スル義務ヲ有ス

一、學資ノ支給ヲ受ケタル者ハ修業年限ノ一倍半ニ相當スル期間

二、學資ノ支給ヲ受ケサル者ハ其ノ修業年限ノ二分ノ一ニ相當スル期間

前項ノ期間ハ二學科以上ヲ修メタル場合ニ於テハ通シテ八年ヲ超エス

第三條 卒業生ハ卒業證書受得ノ日ヨリ一年間文部大臣ノ指定ニ從ヒ就職スルノ義務ヲ有ス但シ前條ノ義務一年未滿ナル場合ハ其ノ期間トス

一學科ヲ卒業シタル者ニシテ更ニ他ノ學科ヲ卒業シタルモノニ在リテハ後ノ卒業證書受得ノ日ヨリ一年間前項ノ義務ヲ有ス

第四條 卒業生ニシテ特別ノ事情ニ依リ第二條ノ義務ヲ履行スルコト能ハサルモノハ其ノ理由ヲ具シ道府縣ニ在職スル者ニ在リテハ地方長官其ノ他ノ者ニ在リテハ出身學校長ヲ經テ義務ノ猶豫又ハ免除ヲ文部大臣ニ出願スルコトヲ得

前項ニ依リ出願シタル者アリタルトキハ地方長官又ハ學校長ハ事實ヲ審査シ意見ヲ付シテ願書ヲ進達スヘシ

第二條ノ義務ヲ猶豫又ハ免除シタル場合ニ於テハ第三條ノ義務ハ之ト同時ニ猶豫又ハ免除セラレタルモノトス

第五條 卒業生ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノアリタルトキハ第一條ニ掲ケタル學校ノ學校長ニ於テ文部大臣ノ指揮ヲ受ケ學資ノ支給ヲ受ケタル者ニ對シテハ授業費及在學中支給セラレタル學資、學資ノ支給ヲ受ケサル者ニ對シテハ授業費ヲ償還セシム但シ情

狀ニ依リ其ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトアルヘシ

一、第二條又ハ第三條ノ義務ヲ履行セサル者

二、服務年限中懲戒免職又ハ免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケタル者

前項授業費ノ金額ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ學校長之ヲ定ムヘシ

第六條 卒業生ニシテ服務年限中研究科專攻科又ハ帝國大學學部等ニ入學セムトスルモノアルトキハ時宜ニ依リ許可スルコトアルヘシ



第七條 卒業者ニシテ第四條ニ依リ其ノ義務ヲ猶豫セラレタルトキ又ハ前條ニ依リ研究科專攻科若ハ帝國大學學部等ニ入學シタルトキハ其ノ猶豫又ハ在學ノ期間ハ服務年數ニ算入セス

#### 附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ノ卒業者ニシテ未タ服務義務ヲ了ラサルモノノ服務年數ニ關シテハ本令ノ規定ニ依ル

大正九年度以前ノ入學者ニシテ從前ノ規定ニ依リ服務義務ナキモノノ服務ハ仍從前ノ例ニ依ル

明治四十二年文部省令第二十五號高等師範學校卒業者服務規則(中略)ハ之ヲ廢止ス

### 第四章 本校諸規則

#### 第一 本校諸規程

##### 一 東京高等師範學校規則 (大正四年二月制定)

##### 第一章 目的

第一條 本校ハ師範學校中學校高等女學校ノ學校長及教員タルヘキ者ヲ養成シ兼ネテ普通教育ノ方法ヲ研究スルヲ以テ目的トス

##### 第二章 學科及修業年限

第二條 學科ヲ分チテ文科理科トシ更ニ分チテ各三部トス

前項學科ノ外體育科ヲ置ク (大正十年四月改正)

第三條 文科第一部ノ學科目ヲ修身、教育學、歷史、法制經濟、心理學論理學及哲學、國語及漢文、英語、生理學及生物學、社會學、體育トシ教育歷史法制經濟ハ其ニテ選ヒテ學習セシム文科第二部ノ學科目ヲ修身、教育學、國語、漢文、習字、心理學論理學及哲學、英語、歷史、言語學、體育トス



文科第三部ノ學科目ヲ修身、教育學、英語、心理學論理學及哲學、國語及漢文、歷史、言語學、體育トス

理科第一部ノ學科目ヲ修身、教育學、數學、簿記、心理學及論理學、國語、英語、測量、物理學、天文、體育トス

理科第二部ノ學科目ヲ修身、教育學、物理學、化學、心理學及論理學、國語、英語、數學、天文氣象、手工、體育トス

理科第三部ノ學科目ヲ修身、教育學、植物學、動物學、生理學及衛生學、礦物學及地質學、地理、農學、心理學及論理學、國語、英語、天文氣象、化學、圖畫、體育トシ地理農學ハ其一ヲ選ヒテ學習セシム

前各項ニ掲ケタル外文理科ノ各部ヲ通シ隨意科目トシテ獨語ヲ課シ又ハ體育ノ時間ヲ增加スルコトアルヘシ

體育科ノ學科目ハ修身、教育學、體操教練及競技、柔道、劍道、體育理論、生物學解剖生理衛生及救急療法、心理學及論理學、國語及漢文、英語、歴史トシ體操教練及競技、柔道及劍道ハ其一ヲ主トセシム(大正七年五月何改正)

生徒ニシテ特別ノ事情アルトキハ其ノ屬スル學科又ハ學部中ノ某學科目ニ代ヘテ他ノ學科又ハ學部中ノ某學科目ヲ學習セシムルコトアルヘシ

第四條 研究科ノ學科目ハ各學科ニ置ク所ノ學科目トシ教授ノ指導ニ依リ所選ノ學科目ヲ研究セシム

第五條 修業年限ハ文科理科體育科ハ各四箇年トシ内一箇年ヲ豫科トス研究科ハ一箇年乃至二箇年トス

第三章 學年學期及休業

第六條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第七條 學年ヲ分チテ三學期トス第一學期ハ四月一日ヨリ八月三十一日ニ至リ第二學期ハ九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至リ第三學期ハ翌年一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第八條 春季休業ハ四月一日ヨリ同月十五日ニ至リ夏季休業ハ七月十一日ヨリ九月十日ニ至リ冬季休業ハ十二月二十五日ヨリ翌年一月七日ニ至ル

第九條 祝日、大祭日、本校創立記念日及日曜日ハ休業トス

第四章 學科程度及課程

第十條 各學科ノ程度左ノ如シ







心理學及論理學	國語	英語	測學	物理學	天文學	體育	隨堂科目
講義、文法、作文	講義、文法	測量	力學、物理學	天文學	體操、教練及競技	獨語	

理科第二部

實踐倫理、國民道德論、倫理學、道德史  
 教育學、教育史、教授法、學校衛生、教育法令  
 力學、物性學、音學、熱學、光學、電磁氣學  
 無機化學、有機化學、礦物學、理論及物理化學  
 論理學、心理學  
 講義、文法、作文  
 代數學、三角法、解析幾何學、微分積分  
 天文、氣象  
 普通木工(木材ヲ主トシタル簡易機械)、普通金工(金屬ヲ主トシタル簡易機械)  
 體操、教練及競技

隨堂科目	體育	國語	英語	心理學及論理學	農學	地質學	礦物學及地質學	生理學及衛生學	動物學	植物學	教育學	修身
				講義、文法、作文	講義、文法、作文	講義、文法	天文、氣象	有機化學、無機化學	臨畫、寫生畫、投影畫法大要、照鏡畫法大要、黑板畫練習、水彩畫	體操、教練及競技	獨語	

理科第三部

實踐倫理、國民道德論、倫理學、道德史  
 教育學、教育史、教授法、學校衛生、教育法令  
 形態學、比較解剖學、發生學、分類學、應用植物學、生理學、生藥學  
 通論、各論、發生學、進化論  
 人身生理、衛生  
 礦物學、地質學  
 地理學通論、日本地誌、アジヤ地誌、ヨーロッパ及アフリカ地誌、アメリカ及オセアニア地誌  
 作物及園藝、養畜及養蠶、土壤及肥料、農業經濟  
 論理學、心理學  
 講義、文法、作文  
 講義、文法  
 天文、氣象  
 有機化學、無機化學  
 臨畫、寫生畫、投影畫法大要、照鏡畫法大要、黑板畫練習、水彩畫  
 體操、教練及競技  
 獨語

體育科

第四章 本校諸規則 第一 本校諸規程 一 東京高等師範學校規則 二一ノ七



修身	實踐倫理、倫理學、國民道德論、西洋倫理學史、道德史、東洋倫理學史
教育	教育學、教育史、教授法、學校衛生、教育法令
體操	體操、教練及競技
柔道	柔道總論、柔道各論、形、亂捕、問答、教授法
劍道	劍道總論、劍道各論、形、試合、問答、教授法
體育理論	體育理論
生物學	生物學、解剖學、生理學、衛生學、一般病理學、救急療法
衛生學及救急療法	論理學、心理學
心理學及論理學	講讀、文法、作文
國語及漢文	講讀、文法
英語	國史、東洋史、西洋史
歷史	

第十一條 各學年ノ學科課程及每週授業時數ハ左表ニ依ル

學年	本科第三學年
----	--------



文 科 第 一 部

學 年	學 程	學 科	學 科 目 及 時 數		修 身	教 育 學	歷 史	法 制 經 濟	心 理 學 論 理	國 語 及 文 法	英 語	生 理 學 及 生 物 進 化 論	社 會 學	體 育	計	
			每 週 時 數	學 科 課 程												
本 科 第 一 學 年	甲 組 乙 組 丙 組	學 科 課 程	二	實 踐 倫 理	四	四	四	四	二	五	七	二		三	三二二九二九	
				倫 理 學	四											
				實 踐 倫 理、倫 理 學	四											
	甲 組 乙 組 丙 組	學 科 課 程	四	四	教 育 學	四	四	六	四	三	三	三	二		三	二八二九二九
					教 育 學	四										
					教 育 學	四										
本 科 第 二 學 年	甲 組 乙 組 丙 組	學 科 課 程	四	國 民 道 德 論	四	四	七	五	四	二	三			三	二八二九二九	
				西 洋 倫 理 學	四											
				國 民 道 德 論、西 洋 倫 理 學	四											
	甲 組 乙 組 丙 組	學 科 課 程	五	五	教 授 法	三	三	七	五	四	二	三			三	二八二九二九
					教 授 法	三										
					教 授 法、教 育 史	三										
甲 組 乙 組 丙 組	學 科 課 程	五	五	演 習	四	四	六	五	二	二	三			三	二八二九二九	
				演 習	四											
				演 習、國 史、東 洋 史	四											
甲 組 乙 組 丙 組	學 科 課 程	七	七	演 習	五	五	六	五	二	二	三			二	二八二九二九	
				演 習	五											
				演 習、教 授 法、教 育 史、教 育 法 令	五											
本 科 第 三 學 年	甲 組 乙 組 丙 組	學 科 課 程	五	道 德 史、東 洋 倫 理 學	五	五	六	五	二	二	三			二	二八二九二九	
				道 德 史、東 洋 倫 理 學	五											
				道 德 史、東 洋 倫 理 學、教 授 法、教 育 史、教 育 法 令	五											
本 科 第 三 學 年	甲 組 乙 組 丙 組	學 科 課 程	五	民 法、商 法、政 法、財 政	五	五	六	五	二	二	三			二	二八二九二九	
				民 法、商 法、政 法、財 政	五											
				民 法、商 法、政 法、財 政、教 授 法、教 育 史、教 育 法 令	五											

(一) 甲組ハ修身、教育、歴史、乙組ハ修身、教育、法制經濟、丙組ハ修身、歴史、法制經濟ヲ主トスルモノトス  
 (二) 體育ノ時間ハ之ヲ增加スルコトアルヘシ  
 (三) 本表ノ外國意科トシテ本科ニ稱語ヲ限ス



文科第二部

學年	豫	學科目 數時及課程		修身	教育學	國語	漢文	習字	心理學 學及哲學 論理	英語	歷史	言語學	體育	計	
		每週 時數	學科課程												
本科第一學年	科	二	國民道德論	二	實踐倫理	六	六講讀、文法、作文	二	習字	二	論理學	七	七講讀、文法	三	三國史
		二	國民道德論	二	教育學	六	六講讀、文法、作文	七	七講讀、文法、作文	二	心理學	三	三講讀	三	三國史
本科第二學年	本科第二學年	二	倫理學	三	教育史、教授法	七	七講讀、文法、作文 修辭學、發音矯正	八	八講讀、作文、文學史	二	哲學概論	三	三講讀	三	三國史
		二	倫理學	三	教育史、教授法	七	七講讀、文法、作文 修辭學、發音矯正	八	八講讀、作文、文學史	二	哲學概論	三	三講讀	三	三國史
本科第三學年	本科第三學年	二	道	二	道	八	八講讀、文法、文學 有職故實、國語學概論	八	八講讀、作文、文學史			三	三言語學、聲音學	二	二八
		二	道	二	道	八	八講讀、文法、文學 有職故實、國語學概論	八	八講讀、作文、文學史			三	三言語學、聲音學	二	二八

(一) 體育ノ時間ハ之ヲ增加スルコトアルヘシ  
(二) 本表ノ外隨意科トシテ本科ニ獨語及第二學年第三學年ニ習字ヲ課ス



文科第三部

學年	豫	學科目 數時及程度		修身	教育學	英語	心理學 論理學	漢國語及 文	歷史	言語學	體育	計
		每週 時數	課程									
本科第一學年	科	每週 時數	學科課程	二 實踐倫理		一四 講讀、文法、作文、口述	二 論理學	五 講讀、文法、作文	三四 西洋史		三 體操、教練及競技	二九
			學科課程	二 國民道德論	二 教育學		一五 講讀、文法、作文、口述	二 心理學	二 講讀	二四 西洋史		三 體操、教練及競技
本科第二學年	本科第二學年	每週 時數	學科課程	二 倫理學	三 教育史、教授法	一六 講讀、作文、口述、修辭學	二 哲學概論	二 講讀			三 體操、教練及競技	二八
			學科課程	二 道	五 教授法、學校衛生、 教育法令	一六 講讀、作文、口述、文學史						二 體操、教練及競技
本科第三學年	本科第三學年	每週 時數	學科課程	二 道	五 教授法、學校衛生、 教育法令	一六 講讀、作文、口述、文學史					二 體操、教練及競技	二八
			學科課程	二 道	五 教授法、學校衛生、 教育法令	一六 講讀、作文、口述、文學史						二 體操、教練及競技

(一) 體育ノ時間ハ之ヲ增加スルコトアルヘシ  
(二) 本表ノ外隨意科トシテ本科ニ獨語ヲ課ス







理科第二部

學年	課程及科目	豫		修身	教育學	物理學	化學	心理學及論理學	國語	英語	數學	天文氣象	手工	體育	計
		學科	課程												
本科第一學年	每學週 時數	學科課程	二國民道德論	二實踐倫理	二教育學	二力學	一實驗二無機化學	二論理學	三講讀、文法、作文	七講讀、文法	四代數學、三角法、解析幾何學		一實習 普通木工、木材、主トシ タル簡易機械	三體操、教練及競技	二五 實習二回 演習一回
			二國民道德論	二國民道德論	二教育學	一實驗四物性學、音學	二論理學	三講讀、文法	四代數學、三角法、解析幾何學、微分積分	三講讀	四	一實習 普通金工 タル簡易機械	三體操、教練及競技	二五 實習二回 演習一回	
本科第二學年	每學週 時數	學科課程	二倫理學	二實踐倫理	三教育學、教育法	二實驗四熱學、光學	二實驗四有機化學			三講讀	二天			三體操、教練及競技	四回 演習二回
			二倫理學	二實踐倫理	三教育學、教育法	二實驗四熱學、光學	二實驗四有機化學								三體操、教練及競技
本科第三學年	每學週 時數	學科課程	二道徳史	二實踐倫理	五教育法、學校衛生	二實驗四電磁氣學	三實驗四理論及物理化學					二氣象		二體操、教練及競技	五回 演習一九
			二道徳史	二實踐倫理	五教育法、學校衛生	二實驗四電磁氣學	三實驗四理論及物理化學						二氣象		二體操、教練及競技

(一) 體育ノ時間ノ増加スルコトアルヘシ  
(二) 本表ノ外隨意科トシテ本科ニ屬語ヲ限ス









學年 及 學科	學科 目 及 時 數	每 週 時 數			身 修	教 育 學	及 體 操 技 練	柔 道	劍 道	體 育 理 論	生 物 學 及 生 理 學	心 理 學 及 論 理 學	漢 國 語 及 文 法	英 語	歷 史	計		
		甲 組	乙 組	丙 組														
本 科 第 一 學 年	學 科 課 程	每 週 時 數	甲組	二	二	二	二	四	一〇	二	四	二	四	五	三	三三三三三三		
			乙組	二	二	二	二	四	一〇	二	四	二	四	五	三	三三三三三三		
		丙組	二	二	二	二	四	一〇	二	四	二	四	五	三	三三三三三三			
		學 科 課 程	甲組	二	二	二	二	三	九	四	一〇	二	四	二	四	五	三三三三三三	
			乙組	二	二	二	二	三	九	四	一〇	二	四	二	四	五	三三三三三三	
			丙組	二	二	二	二	三	九	四	一〇	二	四	二	四	五	三三三三三三	
	學 科 課 程	每 週 時 數	甲組	四	四	四	二	九	四	一〇	二	四	二	四	五	二	三三三三三三	
			乙組	四	四	四	二	九	四	一〇	二	四	二	四	五	二	三三三三三三	
		丙組	四	四	四	二	九	四	一〇	二	四	二	四	五	二	三三三三三三		
		學 科 課 程	甲組	四	四	四	二	三	九	四	一〇	二	四	二	四	五	二	三三三三三三
			乙組	四	四	四	二	三	九	四	一〇	二	四	二	四	五	二	三三三三三三
			丙組	四	四	四	二	三	九	四	一〇	二	四	二	四	五	二	三三三三三三
本 科 第 二 學 年	學 科 課 程	每 週 時 數	甲組	四	四	四	二	九	四	一〇	二	四	二	四	五	二	三三三三三三	
			乙組	四	四	四	二	九	四	一〇	二	四	二	四	五	二	三三三三三三	
		丙組	四	四	四	二	九	四	一〇	二	四	二	四	五	二	三三三三三三		
		學 科 課 程	甲組	四	四	四	二	三	九	四	一〇	二	四	二	四	五	二	三三三三三三
			乙組	四	四	四	二	三	九	四	一〇	二	四	二	四	五	二	三三三三三三
			丙組	四	四	四	二	三	九	四	一〇	二	四	二	四	五	二	三三三三三三
	學 科 課 程	每 週 時 數	甲組	四	四	四	二	三	九	四	一〇	二	四	二	四	五	二	三三三三三三
			乙組	四	四	四	二	三	九	四	一〇	二	四	二	四	五	二	三三三三三三
		丙組	四	四	四	二	三	九	四	一〇	二	四	二	四	五	二	三三三三三三	
		學 科 課 程	甲組	四	四	四	二	三	九	四	一〇	二	四	二	四	五	二	三三三三三三
			乙組	四	四	四	二	三	九	四	一〇	二	四	二	四	五	二	三三三三三三
			丙組	四	四	四	二	三	九	四	一〇	二	四	二	四	五	二	三三三三三三
學 科 課 程	每 週 時 數	甲組	四	四	四	二	三	九	四	一〇	二	四	二	四	五	二	三三三三三三	
		乙組	四	四	四	二	三	九	四	一〇	二	四	二	四	五	二	三三三三三三	
	丙組	四	四	四	二	三	九	四	一〇	二	四	二	四	五	二	三三三三三三		
	學 科 課 程	甲組	四	四	四	二	三	九	四	一〇	二	四	二	四	五	二	三三三三三三	
		乙組	四	四	四	二	三	九	四	一〇	二	四	二	四	五	二	三三三三三三	
		丙組	四	四	四	二	三	九	四	一〇	二	四	二	四	五	二	三三三三三三	
本 科 第 三 學 年	學 科 課 程	每 週 時 數	甲組	四	四	四	二	九	四	一〇	二	四	二	四	五	二	三三三三三三	
			乙組	四	四	四	二	九	四	一〇	二	四	二	四	五	二	三三三三三三	
		丙組	四	四	四	二	九	四	一〇	二	四	二	四	五	二	三三三三三三		
		學 科 課 程	甲組	四	四	四	二	九	四	一〇	二	四	二	四	五	二	三三三三三三	
			乙組	四	四	四	二	九	四	一〇	二	四	二	四	五	二	三三三三三三	
			丙組	四	四	四	二	九	四	一〇	二	四	二	四	五	二	三三三三三三	
	學 科 課 程	每 週 時 數	甲組	四	四	四	二	九	四	一〇	二	四	二	四	五	二	三三三三三三	
			乙組	四	四	四	二	九	四	一〇	二	四	二	四	五	二	三三三三三三	
		丙組	四	四	四	二	九	四	一〇	二	四	二	四	五	二	三三三三三三		
		學 科 課 程	甲組	四	四	四	二	九	四	一〇	二	四	二	四	五	二	三三三三三三	
			乙組	四	四	四	二	九	四	一〇	二	四	二	四	五	二	三三三三三三	
			丙組	四	四	四	二	九	四	一〇	二	四	二	四	五	二	三三三三三三	

體 育 科 (大正七年五月改正)

(一) 甲組ハ體操、乙組ハ柔道、丙組ハ劍道ヲ主トスルモノトス  
 (二) 第三學年第三學期ハ本表ノ外授業ヲ課ス  
 (三) 本表ノ外毎年夏季ニ於テ一ヶ月間游泳ヲ課ス



第五章 定員募集入學退學休學給與及罰科

第十二條 生徒ノ定員ハ凡ソ六百名トス(大正四年十月改正)

第十三條 生徒ハ師範學校又ハ官公立中學校及文部大臣ニ於テ徵兵令第十三條ニ依リ中學校ノ學科程度以上ト認メタル私立中學校ノ卒業生ニシテ身體健全品行方正ナル者ヨリ當該學校長之ヲ薦舉シ其中ニ就キ試驗ノ上選拔スルモノトス  
但シ本文ノ外必要アルトキハ相當ノ資格アル者ヲ募集シ試驗ノ上入學セシムルコトアルヘシ

前項ニ掲ケタル學校ノ生徒ニシテ當該學校長ニ於テ本條ノ募集ニ依リ入學スヘキ者ノ入學期以前ニ卒業スヘシト認メタル者ハ當該學校ノ卒業生ニ準スルコトヲ得

第十四條 學校長ニ於テ生徒ヲ薦舉スルトキハ薦舉書(書式第一號)履歷書(書式第二號)身體檢查書(書式第四號)學業成績書(書式第五號)及人物考定書ヲ差出スヲ要ス

第十五條 第十三條但書ニヨリ直チニ本校ニ於テ募集スルトキハ志願者ハ入學願書(書式第二號)履歷書(書式第三號)身體檢查書(書式第四號)學業成績書(書式第五號)ヲ添ヘ出願スヘシ

第十六條 入學志願者ニシテ入學試驗ヲ受ケントスルモノハ受験料金參圓ヲ納ムヘシ  
但シ既納ノ受験料ハ何等ノ事由アルモ之ヲ還付セス



第十七條 入學試験ハ志望學科ニ依リ試問、國語、漢文、英語、數學、地理、歴史、物理

化學、博物、體操、柔道、劍道ノ内若干科目ニ就キテ之ヲ行フモノトス(大正四年十月改正)

第十八條 入學ヲ許可セラレタル生徒ハ正副保證人ヲ定メテ入學證書(書式第(六)號)ヲ差出スヘシ

前項ノ保證人又ハ副保證人ヲ不適當ナリト認ムルトキハ之ヲ換ヘシムルコトアルヘシ

第十九條 保證人又ハ副保證人死去シ若ハ其ノ資格ヲ失フトキハ直チニ他人ヲ以テ之ニ換

ヘ正副保證人連署ノ上届書ヲ差出スヘシ

第二十條 入學ヲ許可セラレタル生徒ハ明治四十二年文部省令第二十五號高等師範學校卒

業者服務規則ヲ遵奉スル誓書(書式第(七)號)ヲ差出スヘシ

第二十一條 生徒ニハ時宜ニ依リ學資ヲ給與スルコトアルヘシ

第二十二條 生徒在學中疾病ニ罹リ若ハ學業進マス又品行修マラサルカタメニ成業ニ適セ

スト認ムルトキハ退學ヲ命ス

第二十三條 生徒病氣ノタメ一學年中引續キ二箇月以上課業ヲ缺キ若ハ缺クヘシト認ムル

トキハ一箇年以内休學ヲ命ス

但シ學校長ニ於テ休學ヲ命スルノ必要ナシト認ムルトキハ特ニ本文ニ依ラサルコトアル

生徒ハ學校長ノ許可ヲ得テ徵兵令ニ依リ兵役ニ服シ又ハ陸軍一年志願兵ノ服役ヲ出願ス

ルコトヲ得

前項ニ依リ服役シタル者ハ其ノ服役中ハ休學トス

第二十四條 休學中ノ生徒ニシテ其ノ休學ノ期限終リタルトキハ原級ニ復セシム

第二十五條 生徒其ノ本分ニ背キタル行爲アルトキハ其ノ輕重ニヨリ左ノ罰科ニ處ス

一、譴責 二、謹慎 三、停學 四、放校

第二十六條 生徒在學中自己ノ便宜ニ依リ退學ヲ願フ者又ハ前條ニ依リ放校ニ處セラレタ

ル者ハ支給セラレタル學資及授業費ヲ償還スヘシ

但シ情狀ニ依リ其ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトアルヘシ

第六章 學業成績調査及卒業

第二十七條 生徒ノ學業成績ハ學期成績學年成績及卒業成績ノ三種ニ分チテ之ヲ調査ス

第二十八條 及第落第及卒業ハ教員會議ヲ經テ學校長之ヲ決ス

第二十九條 本科修了ノ者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第七章 研究科

第三十條 研究科入學志望ノ者ハ願書(書式第(八)號)ニ履歷書(書式第(三)號)身體檢查書(書式第(四)號)ヲ添ヘ出



願スヘシ

現ニ官職ニアルモノハ監督長官ノ承認書ヲ添付スルヲ要ス

第三十一條 研究科生徒ハ本校卒業生中ヨリ學校長之ヲ選抜シ文部大臣ノ認可ヲ經テ入學セシムルモノトス

學校長ハ前項ノ外授業上差支ナキ場合ニ於テ左ノ資格ヲ有スル者ニ就キ特ニ適當ト認ムル者ニ限リ入學セシムルコトヲ得

一 内外國ニ於ケル官公私立ノ高等ナル學校ノ卒業生

二 多年教職ニ從事シ相當ノ學識經驗アル者

第三十二條 研究科生徒成規ノ學科ヲ履修シタルトキハ卒業論文ヲ提出セシメ相當ノ學力アリト認ムル者ニハ研究科卒業證書ヲ授與ス

第三十三條 前條ニ合適セサル研究科生徒ニハ本人ノ申請ニヨリ研究證明書ヲ下附ス

第三十四條 學校長ハ必要ニ應ジ研究科生徒ノ入學又ハ卒業ノ際學力試驗ヲ施行スルコトアルヘシ

第三十五條 第六條乃至第九條、第十八條、第十九條、第二十二條、第二十六條ハ研究科生徒ニ就キテモ之ヲ適用ス

第八章 專攻科

第三十六條 專攻科ハ各學科各部ニ於ケル學科目中ノ一科若ハ數科ヲ專攻セシムルモノトス

專攻科ハ其ノ專攻スル學科目ニ依リテ之ヲ學部ニ分ツ

專攻科ノ修業年限ハ二箇年トス

專攻科ノ學部學科目學科課程每週教授時數生徒定員等ハ生徒募集ノ都度文部大臣ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ定ム

第三十七條 專攻科生徒ハ左ノ資格ヲ有スル者ニ就キ學校長ノ特ニ適當ト認ムル者ニ限リ入學セシム

一 本校及廣島高等師範學校本科專修科卒業生

二 内外國ニ於ケル官公私立ノ高等ナル學校ノ卒業生

三 多年教職ニ從事シ相當ノ學識經驗アル者

第三十八條 專攻科入學志望ノ者ハ願書(書式第 八號)ニ履歷書(書式第 三號)身體檢查書(書式第 四號)ヲ添へ出願スヘシ

現ニ官職ニアル者ハ監督長官ノ承認書ヲ添付スルヲ要ス



第三十九條 專攻科生徒成規ノ學科ヲ修了シタルトキハ卒業證書ヲ授與ス

第四十條 學校長ハ專攻科生徒ノ入學ノ許否ヲ決スル爲メ必要アリト認ムルトキハ試験ヲ施行スルコトアルヘシ

第四十一條 第六條乃至第九條、第十六條、第十八條、第十九條、第二十一條、第二十二條、第二十五條乃至第二十八條ハ專攻科生徒ニ就キテモ之ヲ適用ス

第九章 專修科

第四十二條 師範學校中學校高等女學校教員ノ缺乏ヲ充タスタメニ特別ノ必要アル場合ニ於テハ專修科ヲ置クコトアルヘシ

第四十三條 專修科ノ學科目及其ノ程度並修業年限募集人員入學者資格等ハ其ノ都度文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

第四十四條 專修科生徒所定ノ學科ヲ修了シタルトキハ卒業證書ヲ授與ス

第四十五條 第六條乃至第九條、第十三條乃至第十六條、第十八條乃至第二十二條、第二十五條乃至第二十八條ハ專修科生徒ニ就キテモ之ヲ適用ス

第十章 撰科

第四十六條 師範學校中學校高等女學校教員タルノ志望ヲ有スル者ニシテ各學科各部中ノ

一科目若ハ數科目ヲ選ヒテ學修セントスル者アルトキハ教授上差支ナキ場合ニ限り各學科各部ノ撰科生徒トシテ入學ヲ許可ス

第四十七條 撰科生徒ハ何等ノ科目ヲ撰フニ拘ラス教育學ヲ兼修スルコトヲ要ス

第四十八條 撰科生徒ハ教育學及所撰ノ科目ニ就キ本科又ハ專修科生徒ト同レク課業ヲ受クルモノトス

第四十九條 在學期限ハ學科ノ種類ニ依リ二箇年以上四箇年以下トス

第五十條 撰科生徒ハ學年ノ始メニ入學セシム

第五十一條 撰科ノ入學試験科目ハ試問及所撰科目ノ外豫科修了ノ程度ニ依レル國語漢文及英語ノ三科目トス

第五十二條 撰科生徒ハ品行方正身體健全ニシテ試験ノ上所選ノ科目ヲ學修スルニ堪フヘシト認ムル者ニ限ル

但シ本校及舊東京師範學校卒業生ニハ試験ヲ用キス

第五十三條 撰科入學志望者ハ入學願書(書式第九號)ニ履歷書(書式第三號)ヲ添ヘテ差出スヘシ

第五十四條 撰科生徒ハ毎月授業料金貳圓五拾錢ヲ納ムヘシ

但シ毎年八月及本校ノ都合ニヨリ全ク休業スル月ハ之ヲ徴收セス



第五十五條 撰科生徒所撰ノ學科ヲ修了シタルトキハ卒業證書ヲ授與ス  
第五十六條 第六條乃至第九條、第十一條、第十八條、第十九條、第二十二條乃至第二十五條、第二十七條乃至第二十八條ハ撰科生徒ニ就キテモ之ヲ適用ス

○書式第一號

寫 書 (用紙美濃紙)  
何國何郡町村大字 何番地或ハ何某方同居 (寄留者ハ本籍寄留) 戶主  
或ハ何某何男兄弟等  
道廳府縣 華、士族 平民  
(第一志望何科何部ト朱記スヘシ)  
(第二志望何科何部ト朱記スヘシ)  
年 月 日 何 某 日生

○書式第二號

入學願書 (用紙美濃紙) (學校長ノ寫眞ニ依ラサルモノ)  
私儀師範學校中學校高等女學校教員志望ニ有之候ニ付學力御試驗之上御校へ入學仕候儀御許可相成度別紙履歴書身體  
右ハ本校ヲ卒業シ成績優等ナル者ニシテ師範學校中學校高等女學校教員志望ニ候處學力品行共通當ノ者ト認メ候ニ付  
御校生徒ニ御選拔相成度別紙本人履歴書身體檢查書學業成績書人物考定書相添ヘ願學候也  
何道廳府縣何學校長 何 某印  
東京高等師範學校校長 何 某殿

檢査書 (地方ニア受) 學業成績書 (師範學校中學校) 相添ヘ此段奉願候也  
(驗者ニ限ル) (卒業生ニ限ル)

年 月 日 何國 (以下第一號書式ニ同シ)  
東京高等師範學校校長 何 某殿 何 某印

○書式第三號

履 歷 書 (用紙美濃紙)  
何國 (以下第一號書式ニ同シ)

(假名ヲ附スヘシ)  
年 月 日 何 某 日生

一卒業證書免許狀  
何年何月何日官公私立何學校 (小學校) ニ於テ何學科卒業證書ヲ受ク (證書寫ヲ添フヘシ)  
何年何月何日何所ニ於テ何免許狀ヲ受ク (免許狀寫ヲ添フヘシ)

一學 業  
何年何月何日何年何月何日マテ何所何某ニ就キ何學科修業  
何年何月何日官公私立何學校 (小學校) ニ入り何學科修業何年何月何日卒業或ハ何々ニ付半途退學或ハ何箇年ノ程度ヲ卒業  
一兵 役  
何年何月何日何年何月何日マテ何國何旅團何兵何職隊ニ入り隨軍現役ニ服セリ或ハ何年何月何日何所ニ於テ



徵兵検査ヲ受ケ何々ニ付國民軍ニ編入セラル等

一職 業

何年何月何日北海道廳何府縣ニ於テ訓導拜命何國何郡何市町村何學校在勤何年何月何日依願免官或ハ現今在勤等

何年何月何日何官職拜命或ハ何業ニ従事何年何月何日依願免官職或ハ廢業或ハ現今在職從事等

一賞 罰

何年何月何日何所ニ於テ何々ニ付何賞ヲ受ケ或ハ何罰ヲ受ケ等

右之通相違無之候也

右

年 月 日

何

某印

前書本人ハ曾テ刑罪ニ處セラレタルコトナク且ツ本書中兵役ニ關スル事項相違無之ニ付證明候也

年 月 日

道廳何郡町村長

何

某印

(此ノ履歷書ニ市町村長ノ證明シタル戸籍全寫ヲ添附スルヲ要ス)

○書式第四號

(記載方ハ附録身體検査書記載方心得ニ依ルヘシ)

身體検査書 (用紙美濃紙)

道廳府縣 平華、士民族

年 月 日 某

一體 格

一體 長

一體 重

一胸 圍 盈虛ノ變

一中心 視力

一色 盲

一視 病

一聽 力

一耳 疾

一呼 吸器

一神 經系

一皮 膚

一言 語

一既往現在ノ疾病又ハ畸形

一四肢運動障害ノ有無

右検査候處相違無之候也

年 月 日

檢 査

住 所

何學校醫(學校醫ノナキ地方ニアリテハ明治三十一年文部省令第七號第一條若ハ第二條ニ該當スル資格アル醫師)

學 位 若ハ 資格

何

某印

○書式第五號

學業成績書 (用紙美濃紙)

第四章 本校諸規則 第一 本校諸規程 一 東京高等師範學校規則 二一ノ一九



級別	學科別					同級生徒何人中ニアリテノ席次	氏名
	修身	國語	漢文	何々	何々		
第一年							
第二年							
第三年							
第四年							
第五年							

備考 一、同級生徒何人中ニアリテノ席次ハ學業ノ成績ニヨリテ次第スルモノトス  
 二、最後ノ欄ニハ同級生徒中ニ於ケル各學科成績ノ順位ヲ記入スルモノトス  
 前書之通相違無之候也

何道順何學校長 何 某印

○書式第六號

入學證書 (用紙美濃紙)  
 私備今般御校 學生 入學證書ニ御選取入學(專修科生或ハ撰科生トシテ入學)御許可相成候ニ付キテハ御規則堅ク相守リ  
 專攻科生 御指揮ヲ可奉候也  
 何國 (以下第一號書式ニ同シ)

年 月 日 何 某印

前書之通相違無之候ニ付拙者共證人ニ相立テ本人身上ヨリ相起リ候事ハ一切引受ケ可申候也  
 但シ向後拙者共住所移轉等致シ候節ハ速カニ可届出又兩人同時ニ旅行スルトキハ更ニ代人ヲ立テ可届出候  
 住所族籍職業  
 保 證 人 何 某印

年 月 日 同 副保證人 何 某印

○書式第七號

前書保證人何某副保證人何某ハ丁年以上ニシテ當區内ニ住居シ一家計ヲ立ツル者ニ相違無之候也  
 東京高等師範學校長 何 某殿  
 東京市何區長 何 某印  
 誓 書 (用紙美濃紙)  
 私備今般御校ニ入學御許可相成候ニ就キテハ明治四十二年文部省令第二十五號高等師範學校卒業生服務規則ヲ遵守シ  
 敢テ違背無之候可致ハ勿論始終勤勉ニ國家教育ノ業務ニ從事可任候依テ誓書如件  
 何國 (以下第一號書式ニ同シ)

年 月 日 東京高等師範學校長 何 某殿 何 某印

○書式第八號

入學願書 (用紙美濃紙)



私立御校 研究科々目中何々何々ノ何科目研究、志望ニ有之候ニ付御校 研究科 専攻科 生徒トシテ入學仕度候間(御撰被ノ上) 御許可相成度別紙履歷書身體検査書相添へ此段奉願候也

年 月 日

東京高等師範學校長 何 某殿

何 某印

○書式第九號

入學 願書 (用紙美濃紙)

私儀師範學校中學校高等女學校教員志望ニ有之候ニ付(學力御試験之上)(本校及ト舊東京師範)御校撰科生トシテ入學 何科(何部)中何科目修業仕候儀御許可相成度別紙履歷書身體検査書相添へ此段奉願候也

年 月 日

東京高等師範學校長 何 某殿

何 某印

(附 錄)

身體検査書記載方心得

- 一 検査ノ表記ニハ度ハ尺、衡ハ貫ヲ以テ單位トシ四捨五入法ヲ用ヒテ度ハ分、衡ハ忽ニ止ムヘシ
- 一 體格、強健ト稱スルモノハ全身發育對稱完全ニシテ營養佳良無病健全ノ者ヲ指ス中等ト稱スルハ發育營養共ニ通常ニシテ強健ニ亞キ無病ノ者ヲ指ス薄弱ト稱スルハ發育營養共ニ不十分ナルカ或ハ強度ノ脊柱彎曲胸廓ノ畸形扁平胸 瘦若クハ全身ノ健康ニ直接ノ關係アル慢性ノ疾患アル者ヲ指ス
- 一 中心視力ハスネルレン氏ノ試視力表ニ依リテ其ノ記載方ハ 20/Xト記スヘシ但シ遠視若シクハ近視ニアリテハニ

十尺ノ距離ニ於テ二十號ヲ明視シ得ル眼鏡ノ度ヲ記載スヘシ  
色盲ハ其ノ有無若シ其ノ患アル者ハ何色盲ト記載スヘシ

- 一 聽力ハ障害ノ有無ヲ記載スヘシ
- 一 呼吸器ハ理學的診斷ノ成績ヲ記載スヘシ
- 一 神經系ハ中樞若シクハ末梢神經ニ障害ノ有無ヲ記載スヘシ
- 一 皮膚ハ主トシテ傳染病皮膚病ノ有無ヲ記載スヘシ若シ顔面等ニ現ハレタル皮膚病アルトキハ之ヲモ記載スヘシ
- 一 言語ハ聰明、吃、嗄聲等ヲ記載スヘシ
- 一 既往現在ノ疾病又ハ畸形ハ腦病、肺病、肋膜炎、脚氣等ノ會患、肺病、心臟病、胃腸病等ノ現在及ヒ顯著ナル畸形ヲ記載スヘシ
- 一 四肢運動障害ノ有無ニ於テハ體操遊戲等ヲ行フニ當リ四肢ノ運動ニ障害アルヤ否ヤヲ記載スヘシ



二 東京高等師範學校專攻科修身教育部學科  
課程及每週教授時數

東京高等師範學校專攻科修身教育部學科課程及每週教授時數(大正九年一月定)

學科課程	第一學年	第二學年
國民道德論	二	二
國民道德史	二	二
同演習	二	二
倫理學	二	二
東洋倫理學史	二	二
西洋倫理學史	二	二
教育學	二	二
教育史	二	二
教育行政	二	二

教育學演習	二
哲學概論	二
東洋哲學史	二
西洋哲學史	二
論理學及認識論	二
心理學	四
宗教學	二
印度哲學	二
社會學	二
法學通論	二
憲法論	二
行政法	二
經濟法	二
隨教科目	二
商民法	二

第四章 本校諸規則 第一 本校諸規程 二 東京高等師範學校專攻科修身教育部 二二二二



刑

法

二

二

各學科目ニ就キ第一學年每週二時間ノ授業ヲ以テ一單位トシ各生徒ハ每學年九單位以上ヲ選擇聽講スルモノトス

但シ國民道德論、國民道德史、同演習、倫理學ノ七單位若シクハ教育學、教育史、教育行政、教育學演習ノ六單位ハ其何レカラ必修ス可キモノトス

### 三 東京高等師範學校專修科規則(私費) (大正八年四月定)

#### 圖畫手工專修科

- 第一條 東京高等師範學校規則第九章ニ基キ圖畫手工專修科ヲ置ク
- 第二條 生徒ノ定員ハ約二十名トシ試驗ノ上之ヲ選拔ス
- 第三條 生徒ノ學資ハ自辨トシ授業料ハ之ヲ徵收セス
- 第四條 修業年限ハ大正八年四月ヨリ大正十一年三月ニ至ル三學年トス
- 第五條 學科目及每週授業時數ノ配當左ノ如シ

學科目	第一學年			第二學年			第三學年		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
修身	一	一	一	一	一	一	一	一	一
教育	二	二	二	二	二	二	二	二	二
手工	五	五	五	四	四	四	五	五	五
圖畫	一	一	一	一	一	一	一	一	一

第四章 本校諸規則 第一 本校諸規程 三 東京高等師範學校專修科規則 二二〇一



合 計	體 育	化 學	物 理	數 學	英 語	解剖及色彩學	美學及美術史
三〇	二			二	二	二	二
三〇	二			二	二	二	二
三〇	二			二	二	二	二
二八	二		二		二		二
二八	二		二		二		二
二八	二		二		二		二
二八	二	二					二
二八	二	二					二
一九							

二三ノ二

本表ノ外第三學年第三學期ニ於テ授業練習ヲ課ス

第六條 入學試驗ヲ分チテ身體檢查試問及學科試驗トス

學科試驗ノ科目及程度左ノ如シ

國語 解釋、文法、作文  
英語 解釋、文法、作文

數學 算術、代數、幾何

圖畫 自在畫、用器畫

物理及化學

動物及植物

以上中學校卒業ノ程度

但シ師範學校官公立中學校及文部大臣ニ於テ徵兵令第十三條ニ依リ中學校ノ學科程度以上ト認メタル私立中學校ノ卒業生竝ニ小學校本科正教員ノ免許狀ヲ有スル者ニハ國語、英語、圖畫ノ三科目ニ限リ試驗ヲ行フ



四 評議委員會規程 (明治三十八年七月改正)

第一條 本校重要ノ事項ニ關シ學校長ノ諮詢ニ應スル爲メ評議委員會ヲ設ク

第二條 評議委員會ハ左ノ委員ヲ以テ之ヲ組織ス (大正十年五月改正)

一 教授 十四名

二 生徒監 一名

三 附屬學校主事

四 幹事

學校長ハ必要ト認ムルトキ評議委員ニアラサル職員ヲシテ評議委員會ニ臨時出席セシムルコトアルヘシ但シ可否ノ數ニ加ラス

第三條 教授生徒監ニシテ評議委員タルヘキ者ハ學校長之ヲ命ス

前項評議委員ノ任期ハ三箇年ヲ一期トシ補闕委員ハ前任者ノ殘任期間在任ス

第四條 學校長ハ評議委員會ヲ召集シ其議長トナル

評議委員會ハ毎月一回之ヲ召集ス但シ七月及八月ヲ除ク

第五條 評議委員ハ他ノ評議委員二名以上ノ同意アルトキハ評議委員會ノ召集ヲ請求スル

コトヲ得

第六條 教授助教教授ハ他ノ教授助教教授四名以上ノ同意アルトキハ評議委員會ノ議案ヲ提出スルコトヲ得

前項議案ヲ評議スル評議委員會ニハ提出者ノ一名ハ説明者トシテ出席スヘキモノトス

附 則

第七條 (大正十年五月改正 削除)



五 教授會規程 (明治三十四年三月定)

第一條 重要ノ教務ヲ諮詢スル爲メ本校ニ教授會ヲ置キ教授ヲ以テ會員トス但シ學校長ハ必要ト認ムルトキ助教、講師ヲシテ本會ニ列席セシムルコトアルヘシ

第二條 學校長ハ教授會ヲ召集シ其議長トナル但シ學校長事故アルトキハ上席教授之ニ代ル

第三條 教授會ハ會員過半数ノ出席アルニアラサレハ開會セス

第四條 決議ハ出席會員ノ過半数ニ依ル但シ可否同數ナルトキハ議長ノ意見ニ依ル

第五條 教授ハ教授會ノ議ニ附セント欲スル事項アルトキハ學校長ニ申請スルコトヲ得

第六條 教授會ハ毎月一回之ヲ開ク但シ特ニ緊急ノ事件アルトキハ隨時之ヲ開ク

第七條 教授會記録ハ教務課ニ於テ筆記保管ス

六 學級主任規程 (明治三十七年四月定)

第一條 本校各部各學年 (各學年中數組ニ分レタルトキハ其各組ヲ以テ一學級トス以下做之)ニ學級主任一名ヲ置キ關係教授中ニ就キ每學年學校長之ヲ命ス但必要ニ應シ二名ヲ置クコトアルヘシ

第二條 學級主任ハ左ノ事項ノ調査ヲ掌ルモノトス

- 一 生徒ノ勤怠、性及學業ノ成績ニ關スルコト
- 二 生徒ノ處罰、休學、退學ニ關スルコト
- 三 其他當該學級ノ利害ニ關スルコト

第三條 學級主任ハ擔當ノ事項ニ關シ關係教官講師ノ一部若クハ全體ノ協議會ヲ開クコトヲ得

第四條 學級主任ハ擔當ノ事項ニ關シテハ教務課ヲシテ其事務ヲ補助セシムルコトヲ得

附 則

第五條 本規程ハ明治三十七年四月一日ヨリ施行ス

第六條 明治三十四年三月十六日定教務委員規程ハ本規程施行ノ日ヨリ廢止ス

第四章 本校諸規則 第一 本校諸規程 五 教授會規程 六 學級主任規程



七 學科主任規程 (明治三十七年四月定)

第一條 左ノ各學科ニ學科主任一名ヲ置キ關係教授中ニ就キ學校長之ヲ命ス但關係教授ナキトキハ助教或ハ講師ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得 (大正四年七月改正)

- 一 修身
- 二 教育學
- 三 歷史
- 四 法制經濟
- 五 國語、習字
- 六 漢文
- 七 英語、獨語
- 八 數學、簿記、測量
- 九 物理學、天文氣象
- 十 化學
- 十一 植物學
- 十二 動物學
- 十三 解剖學、生理衛生、救急療法
- 十四 礦物學、地質學
- 十五 地理

- 十六 農學
- 十七 體操、教練、競技、體育理論
- 十八 柔道
- 十九 劍道
- 二十 心理學
- 二十一 哲學、論理學、社會學
- 二十二 生物學
- 二十三 言語學
- 二十四 手工
- 二十五 圖畫

第二條 學科主任ハ左ノ事項ヲ掌ルモノトス

- 一 教授要旨及教授細目ヲ整頓スルコト
- 二 教科用書ニ關シ提案スルコト
- 三 教授分擔ニ關シ提案スルコト
- 四 修學旅行ニ關スルコト
- 五 教授上ニ要スル教科用書、參考書、標本、藥品、材料等ニ關スル經費豫算ヲ調査スルコト
- 六 其他當該學科ノ教授ニ關スルコト

第三條 學科主任ハ擔當ノ事項ニ關シ關係教官講師ノ一部若クハ全體ノ協議會ヲ開クコトヲ得



第四條 學科主任ハ擔當ノ事項ニ關シテハ教務課ヲシテ其事務ヲ補助セシムルコトヲ得

附 則

第五條 本規程ハ明治三十七年四月一日ヨリ施行ス

第六條 明治三十四年三月十六日定主任教授規程ハ本規定施行ノ日ヨリ廢止ス

### 八 外國學生主任規定 (明治四十三年二月定)

第一條 東京高等師範學校外國學生ノタメ外國學生主任一名ヲ置キ教授中ヨリ學校長之ヲ命ス

第二條 外國學生主任ハ學校長ノ指揮ニ遵ヒ左ノ事項ヲ處理ス

- 一 外國學生ノ入學、退學、休學等ニ關スル事
- 二 外國學生寄宿舎ニ關スル事
- 三 外國學生ノ監督、指導並ヒニ勸怠、性行及ヒ學業ノ成績調査等ニ關スル事
- 四 外國學生ニ關シ外國公館内學生監督處ト交渉スルコト
- 五 其他外國學生ニ關スル事項

第三條 外國學生主任ハ擔當ノ事項ニ關シ關係教官講師ノ一部若クハ全體ノ協議會ヲ開クコトヲ得

第四條 外國學生主任ハ擔當ノ事項ニ關シテハ教務課、庶務課及會計課ヲシテ其事務ヲ補助セシムルコトヲ得

第五條 外國學生主任ハ外國學生寄宿舎ニ關シテハ學校長ノ旨ヲ受ケ外國學生寄宿舎ニ在宿スル舎監ヲ指揮シ外國學生監督指導ノ任ニ當ルモノトス

附 則

第六條 本規程ハ明治四十三年三月一日ヨリ施行ス



### 九 事務規程

(明治四十四年三月改正)

#### 第一章 通則

第一條 本校ノ事務ハ庶務課、教務課、會計課、圖書館、寄宿舎、醫局、附屬中學校及附屬小學校ノ八部ニ於テ之レヲ分掌ス

第二條 圖書館ニ主幹、寄宿舎ニ舍務主任、醫局ニ醫務主任、各課ニ課長ヲ置ク

第三條 主幹ハ教授、舍務主任ハ生徒監、醫務主任ハ校醫、課長ハ書記ノ中ニ就キ學校長之レヲ命ス

第四條 各部所屬ノ各員ハ各其主事、主幹、主任、課長ノ指揮ヲ受ケ職務ニ從事ス

#### 第二章 事務分掌

第五條 庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ處理ス

- 御影及勅語保管ニ關スル事項
- 校長ノ官印及校印ノ管守ニ關スル事項
- 機密ニ關スル事項
- 公文書類ノ接受ニ關スル事項
- 諸規程ノ制定變更等ノ審査ニ關スル事項

第四章 本校諸規則 第一 本校諸規程 九 事務規程



- 諸規程ノ編纂ニ關スル事項
  - 職員ノ進退身分及服務ニ關スル事項
  - 職員ノ叙位叙勳ニ關スル事項
  - 外國留學生ニ關スル事項
  - 祝日祭日及卒業證書授與等ノ儀式ニ關スル事項
  - 本校一覽及統計報告ニ關スル事項
  - 研究會ニ關スル事項
  - 博覽會共進會及展覽會ニ關スル事項
  - 褒賞ニ關スル事項(生徒ニ關スルモノヲ除ク)
  - 當直ニ關スル事項
  - 會議室ノ管理ニ關スル事項
  - 其他各部ニ屬セサル事項
- 第六條** 教務課ニ於テハ左ノ事務ヲ處理ス
- 學科課程ニ關スル事項
  - 教室教具ニ關スル事項
  - 試業ニ關スル事項
  - 生徒募集入學退學卒業賞罰ニ關スル事項
  - 教員免許狀ニ關スル事項
  - 生徒學籍ニ關スル事項
  - 生徒修學旅行ニ關スル事項

- 第七條** 會計課ニ於テハ左ノ事務ヲ處理ス
- 生徒ノ學校等參觀ニ關スル事項
  - 卒業生ニ關スル事項
  - 參觀人ニ關スル事項
  - 講堂ノ管理ニ關スル事項
  - 運動場ノ管理ニ關スル事項
  - 其他教務ニ關スル一切ノ事項
- 第八條** 會計課ニ於テハ左ノ事務ヲ處理ス
- 經常臨時歳入歳出概算及豫算決算ニ關スル事項
  - 官有財産及資金ノ保管ニ關スル事項
  - 物品ノ出納保管及賣却ニ關スル事項
  - 金錢ノ收支及保管ニ關スル事項
  - 經常臨時歳入歳出及物品證明ニ關スル事項
  - 營繕ニ關スル事項
  - 洒掃及道路撒水除雪ニ關スル事項
  - 通信機及暖室器ニ關スル事項
  - 備人ノ備能監督ニ關スル事項
  - 校内ノ警備取締ニ關スル事項
  - 職員食堂ノ管理ニ關スル事項
  - 其他會計ニ關スル一切ノ事項

第四章 本校諸規則 第一 本校諸規程 九 事務規程



- 圖書印章ノ管守ニ關スル事項
- 圖書ノ出納整理保存ニ關スル事項
- 圖書ノ閱覽ニ關スル事項
- 圖書ノ受入及交付ニ關スル事項
- 官報新聞雜誌等ノ出納整理保存ニ關スル事項
- 其他圖書ニ關スル一切ノ事項

第九條 寄宿舎ニ於テハ左ノ事務ヲ處理ス

- 生徒ノ入會退會外宿入院旅行歸省等ニ關スル事項
- 生徒ノ身元調査并ニ進退ニ關スル事項
- 生徒ニ支給スル學費ニ關スル事項
- 寄宿舎ノ衛生ニ關スル事項
- 寄宿舎ノ警備取締ニ關スル事項
- 舍費食費ノ收支ニ關スル事項
- 賄方等ノ備罷監督ニ關スル事項
- 炊事ニ關スル事項
- 寄宿舎ノ出入商人ニ關スル事項
- 其他寄宿舎ニ關スル事項

第十條 醫局ニ於テハ左ノ事務ヲ處理ス

- 校地校舎ノ衛生ニ關スル事項
- 生徒ノ衛生ニ關スル事項

- 生徒ノ疾病治療ニ關スル事項
- 身體検査ニ關スル事項
- 防疫ニ關スル事項
- 其他醫務ニ關スル一切ノ事項

第十一條 附屬中學校、附屬小學校ニ於テハ各其主管ニ屬スル一切ノ事務ヲ處理ス

第三章 文書處理

- 第十二條 本校ニ到達スル文書ハ總テ庶務課ニ接受シ附屬中學校、附屬小學校、及寄宿舎ニ到達スル文書ハ各其部ニ於テ接受スヘシ
- 第十三條 庶務課長ハ幹事ノ指揮ニ依リ庶務課ニ接受シタル文書ノ主管ヲ定メ之レニ檢印シテ第一號様式ノ帳簿ニ依リ各部ニ配付スヘシ
- 第十四條 各部ニ於テ接受シタル文書ハ主査ニ於テ直ニ立案シ合議決裁發送ノ手續ヲナスヘシコレカ爲各部ハ第二號様式ノ處理件名簿ヲ備フルモノトス
- 第十五條 各部ノ主管事務ニシテ他ノ部ニ關係アルモノハ必ス當該部ヘ合議スヘシ
- 第十六條 校長名、校名ヲ以テ發送スル文書ハ勿論各部名ヲ以テスルモノト雖モ特ニ委任セラレタルモノノ外悉ク決裁ヲ經ルヲ要ス



第十七條 機密ニ關スル事項ハ本章ノ規程ニ依ラサルコトアルヘシ

第十八條 處分完了シタル文書ハ各其主管ノ部ニ於テ整理保存スヘシ

第十九條 各部ニ於テ處理濟ノ文書ハ之レヲ別記ノ如ク類別スヘシ

前項各類中ニ於ケル文書ハ事件完結ノ順序ニ依リ其都度第三號様式ノ目次ヲ付シテ之レヲ綴リ年度別トナシ各附記ノ年限間之レヲ保管スヘシ

第四章 事務員

第二十條 事務員昇校スルトキハ必ス出勤簿ニ捺印スヘシ上官ノ命ニ依リ休暇日ニ出勤スルトキモ亦同シ

第二十一條 事務員病氣其他ノ事故ニ依リ缺勤セントスルトキハ出勤時間前ニ其旨届出ツヘシ但シ病氣缺勤七日以上ニ涉ルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ

第二十二條 事務員出勤時間外ニ勤務スルカ若クハ休業日ニ出勤スルトキハ其ノ旨必ス當直ニ届出ツヘシ

第二十三條 事務員ハ新任ノ際其住所及印鑑ヲ届出ツヘシ住所ヲ移轉シ印章ヲ改刻シタルトキ亦同シ

第二十四條 事務員病氣其他ノ事故ニ依リ居住地ヲ離レントスルトキハ學校長ノ許可ヲ受

クヘシ但シ賜暇中ハ旅行日數及場所ヲ記シ届出ツヘシ  
第二十五條 事務員官廳其他ヨリ學校ヲ經由セスシテ直ニ辭令書等ヲ受ケ其事項ノ履歷上ニ關係アルモノハ其都度届出ツヘシ  
第二十六條 各部ノ事務主任ハ毎月一回(第三火曜日)集會シテ事務上ノ打合セラ爲スヘシ但シ各主任ハ事務擔當者ヲシテ出席セシメ若クハ代理セシムルコトヲ得

(第一號)

(別記略ス)

受付番號	出所番號		件名	受付	配付	備考
	出所番號	受付				
第 號				月 日	月 日	

(用紙美濃紙)

(第二號)



番 號	出 所	件 名	受 立 決 定 (丁)	發 送	備 考
			日 月	日 月	
			日 月	日 月	
			日 月	日 月	
			日 月	日 月	
			日 月	日 月	

(用紙美濃紙)

(第三號)

番 號	月 日	件 名

1011

### 一〇 教官心得 (明治三十七年四月改)

#### 第一 服務上

第一條 本校教官ハ官吏服務規律ニ注意スヘシ

第二條 本校ニ本務ヲ奉スルモノハ豫メ學校長ノ許可ヲ得ルニ非サレハ他ノ職務ニ從事スヘカラス

前項ノ締約、解約ハ其都度遲滞ナク届出ツヘシ

第三條 教官ハ教授訓練其他學校ノ利害ニ關係アル事項ニ就キ其意見ヲ學校長ニ具申スルコトヲ得

第四條 本校教官ハ附屬學校ニ關シ左ノ各項ヲ心得ヘシ

第一 本校教官ハ時々附屬學校ノ教授訓練ノ狀況ヲ觀察シ意見アラハ主事又ハ學校長ニ申告スヘシ

第二 本校教官ハ學校長ノ命ニヨリ第三學期(若ハ第二學期)ニ於テ每週二時間以上附屬學校ニ出席シ教生ノ實地指導ニ協力スヘシ

第三 本校教官ハ教生ノ共同研究ニ出席ヲ求メラレタルトキハ當該學科ノ教官中便宜一名以上繰合セ出席スヘシ

第四 教生ノ實地授業指導ニ關係シタル教官ハ毎學年末ニ於テ報告會ヲ開キ教生指導ノ實況ヲ學校長ニ報告スヘシ

第五 本校教官ハ附屬學校ニ於ケル諸種ノ會合(學藝會運動會)等ニ出席ヲ求メラレタル時ハ可成繰合セ出席スヘシ

#### 第二 教授上

#### 第四章 本校諸規則 第一 本校諸規程 一〇 教官心得

1011



第五條 教官ハ師範教育令ノ趣旨ヲ體シ平素生徒ノ品性、學業ニ留意シ其修養發達ヲ勉ムヘシ

第六條 教官ハ授業ノ際毎時間正確ニ生徒ノ出席缺席ヲ帳簿ニ記入スヘシ

第七條 教官ハ擔當學科ニ關シ學科主任ト協議シテ該學科ノ教授要旨及教授細目ヲ調製シ其他教授上ノ整頓ヲ計ルヘシ

第八條 教官ハ每學期ノ終ニ際シ其學期間ニ於ケル教授ノ經過ヲ記シ學校長ニ申告スヘシ但教官其任ヲ去ルトキハ其學期ニ於ケル退職日迄ノ分ヲ本文ノ例ニ依リ遲滞ナク申告スヘシ

第三 學業成績調査

第九條 生徒ノ學業成績ハ試驗論文又ハ平素ノ成績ニ依リ之ヲ評定ス

第十條 試驗ハ臨時試驗學期試驗及學年試驗ノ三種トス

第十一條 臨時試驗ハ臨時ニ其擔當ノ日課時間ニ於テ之ヲ施行ス

第十二條 學期試驗ハ第一學期及第二學期ノ終リ(學期ノ授業最終日前凡二週日頃ヨリ)ニ於テ特ニ試驗日課表ヲ定メ之ヲ施行ス

各科目ノ學期成績ハ第一學期末及第二學期末ニ於テ該學期內ニ施行シタル學期又ハ臨時

試驗ノ成績論文ノ成績若クハ平素ノ成績ヲ參按シ教員ノ見込ヲ以テ之ヲ評定シ教務課ニ回付スヘシ

學期成績表ハ學級主任之ヲ調査シ成績不良ナル者アルトキハ學級主任又ハ受持教員ヨリ本人ニ必要ナル注意ヲ與フヘシ

第十三條 學年試驗ハ每學年ノ終リ(學年最終日前凡三週日頃ヨリ)最後ノ學年ニ限リ第二學期授業最終前凡二週日頃ヨリ)ニ於テ特ニ試驗日課表ヲ定メ之ヲ施行ス

各科目ノ學年成績ハ學年試驗ノ成績ト各學期ノ成績トヲ參按シ教員ノ見込ヲ以テ之ヲ評定シ教務課ニ回付スヘシ

學科ノ種類ニ依リ豫メ學校長ノ承認ヲ得テ學期試驗ノ成績論文ノ成績又ハ平素ノ成績ニ基キ前項ノ學年成績ヲ定ムルコトヲ得

第十四條 學期試驗及學年試驗ノ答案ハ調査ノ後試驗問題ト共ニ之ヲ教務課ニ回付スヘシ

第十五條 生徒ノ學業成績及入學志望者ノ成績ヲ調査スルニハ別ニ定ムル所ノ學業成績調査內規ニ依ルハシ

第十六條 成績全體ノ及第落第ハ教員會議ニ付シ學校長之ヲ決ス

第四 服裝

第四章 本校諸規則 第一 本校諸規程 一〇 教官心得



第十七條 教官ノ着スヘキ平常ノ服装ハ「フロックコート」黒色又ハ紺色「モーニングコート」無地脊廣トシ病氣ノ場合ニ於テハ羽織(紋付)袴ヲ着用スルコトヲ得  
式場ニ列スルトキハ禮服若クハ「フロックコート」ニ限ルモノトス

第五 諸手續

第十八條 教官新任ノ際ハ履歴書(本校用紙ヲ用フルコト)ヲ庶務課ヘ、印鑑届ヲ會計課ヘ差出スヘシ

第十九條 住所ハ新任又ハ轉居ノ際遲滞ナク庶務課ヘ通知スヘシ

第二十條 病氣等ノ爲メ課業、會議又ハ式日ニ缺席スルトキハ其出席スヘキ時刻前ニ届出ツヘシ但病氣ノ爲メ缺席連續七日以上ニ及フトキハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ

第二十一條 修學旅行、學術研究、學事視察等ノ爲メ出張ヲ命セラレタルトキハ出發ノ前日迄ニ出發届ヲ歸校シタルトキハ直チニ歸校届及ヒ歸校後一週間以内ニ行程及ヒ報告書ヲ差出スヘシ

第二十二條 物品ノ購入修理ヲ要スルトキハ請求用紙ニ品名、數量、年月日ヲ記入シ學科主任ニ差出スヘシ

第二十三條 本校ヲ經由セス他ヨリ直接ニ辭令若クハ囑託ヲ受ケタルトキ其他身分進退履歴ニ關係アル事項ハ其都度辭令寫若クハ囑託其他ノ事項ノ要領ヲ記載シ學校長ニ届出ツ

ヘシ

第二十四條 請暇旅行セントスル場合ニハ學校長ノ許可ヲ受クヘシ

第六 雜件

第二十五條 教官ハ本校諸規則ヲ詳知スヘシ

第二十六條 校達其他ノ通知ハ校報又ハ揭示場(東館西館ノ渡リ廊下)竝ニ會議室ノ揭示ニ就キ了知スヘキモノトス

第二十七條 授業中ハ特ニ通知シタル場合ノ外參觀人ニ對シ生徒ヲシテ敬禮ヲ爲サシメサルモノトス

第二十八條 願書ヲ差出シタルマ、許可ヲ待タスシテ職務ヲ離レ及ハ旅行スルカ如キハ第二十四條ノ趣旨ニ違背スルモノナレハ必ス指令ヲ待テ決行スヘシ

第二十九條 病氣、父母ノ祭日等特ニ休業ヲ許サレタル場合、本務ニ差支ヘタル場合(他ニ本務ヲ有スル者)ノ外私事ノ故障ニ由リ缺勤セントスルモノハ必ス豫メ學校長ノ許可ヲ得ヘシ(第二十四條參照)

第三十條 忌引届ニハ其親族關係ヲ明記スヘシ

第三十一條 電話ニテ缺勤通知ノ向ハ更ニ書面ヲ以テ届出ツヘシ



第三十二條 學校ニ危害ヲ及ホス非常ノ變災ニハ直チニ出校シテ救急ニ盡カスヘシ  
第三十三條 各授業時間ノ始終ハ喇叭ヲ以テ合圖ヲ爲ス但午前及午後ニ於ケル最初ノ授業  
時間ニハ始業ノ十分前ニ用意ノ合圖ヲ爲ス

附 則

本心得ハ第二條、第二十四條、第二十八條ノ外ハ之ヲ講師ニ準用ス

一一 生徒學業成績調査内規 (大正四年十月定)

- 第一條 生徒ノ學業成績ハ學期成績、學年成績及卒業成績ノ三種ニ分チテ之ヲ調査ス
- 第二條 學期成績ハ第一學期及第二學期ノ終リニ、學年成績ハ各學年ノ終リニ、卒業成績ハ最終學年ノ終リニ之ヲ調査ス
- 第三條 學期成績、學年成績及卒業成績ハ之ヲ別表ノ如ク類別調査スルモノトス
- 第四條 學期成績ハ學期試験ノ成績ニ依ル但シ學科ノ種類ニ依リ臨時試験、論文又ハ平素ノ成績ニ依リ之ヲ定ムルコトヲ得
- 第五條 學年成績ハ學年試験ノ成績ニ各學期成績ヲ參按シ教員ノ見込ヲ以テ之ヲ定ム但シ學科ノ種類ニ依リ論文又ハ平素ノ成績ヲ以テ學年試験ノ成績ニ代フルコトヲ得
- 第六條 卒業成績ハ各學年成績ヲ平均シタルモノトス
- 第七條 學年成績及卒業成績ハ教員會議ニ於テ各科目並ニ各類ニ就キ大約次ノ標準ニ依リ
  - 甲 八十點以上
  - 乙 七十點以上







生徒學業成績調査内規別表

科目	第一類		第二類		第三類		評總
	席次	平均	席次	平均	席次	平均	
文部省第一類(甲) 文部省第一類(乙) 文部省第一類(丙)	教育學	教育學	教育學	教育學	教育學	教育學	教育學
文部省第二類(甲) 文部省第二類(乙) 文部省第二類(丙)	教育學	教育學	教育學	教育學	教育學	教育學	教育學
文部省第三類(甲) 文部省第三類(乙) 文部省第三類(丙)	教育學	教育學	教育學	教育學	教育學	教育學	教育學
理科第一部	植物學	植物學	植物學	植物學	植物學	植物學	植物學
理科第二部	動物學	動物學	動物學	動物學	動物學	動物學	動物學
理科第三部(甲) 理科第三部(乙) 理科第三部(丙)	植物學	植物學	植物學	植物學	植物學	植物學	植物學
文科第一部(甲) 文科第一部(乙) 文科第一部(丙)	國語	國語	國語	國語	國語	國語	國語
文科第二部(甲) 文科第二部(乙) 文科第二部(丙)	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語
文科第三部(甲) 文科第三部(乙) 文科第三部(丙)	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語

一、本表中各部ニ於テ各科目ノ欄ニ記入セルモノ各一科目トシ之ニ其ノ次ノ欄ニ記入セル各項ニ分クモノトス

一、科目ノ評點ハ百點ヲ以テ滿點トス

一、科目ノ數項ニ分テ教授スル場合ニハ各項ノ滿點ヲ付テ之ヲ平均シタルモノヲ其科目ノ評點トス但シ國語ニツキテハ講義時間有數者含ムニ、作文一、文法後辭典、國語集讀ヲ含ム、文學史一、漢文ニツキテハ講義四、作文及漢字ヲ含ム、文學史一、英語ニツキテハ講義文學史ヲ含ム、文法(辭典)ヲ含ム、作文一、口述一ノ條數ヲ付テ平均スルモノトス

一、科目又ハ一項ヲ教人ニテ教授スル場合ニハ當該教員ノ合議ニヨリ其ノ科目又ハ項ニ評點ヲ付スルモノトス

一、各類ノ卒業成績ハ各類ニ屬スル各科目各學年ノ總點數ヲ平均シタル評點ヲ以テス

一、總評ハ第一類平均點三、第二類平均點二、第三類點一ノ條數ヲ付テ平均シタル評點ヲ以テス



一二一 入學志願者成績調查內規 (大正四年十月定)

第一條 入學試驗ハ左ノ科目ニ就キテ之ヲ行フモノトス

文科 國語漢文、英語、數學、地理歴史

理科 國語、英語、數學、物理化學、博物

體育科 國語漢文、英語、體操、柔道、劍道

但シ體操ハ甲組ニ限り、柔道ハ乙組ニ限り、劍道ハ丙組ニ限り之ヲ試験ス

第二條 各科目ノ試験ハ之ヲ左ノ如ク區別シ下記ノ時間内ニテ之ヲ行フモノトス

國語 四時間

漢文 二時間

英語 三時間

算術、代數 三時間

幾何 二時間

三角法 一時間半 (理科志願者ニ限り之ヲ課ス)

地理 二時間



歷史	三時間
物理	二時間
化學	二時間
動物	二時間
植物	二時間
礦物	一時間

第三條 入學試驗ノ各科目ハ左ノ如ク之ヲ類別シ各科目ノ點數及各類ノ總點數、平均點數並ニ全科目ノ總點數、平均點數及席次ヲ調査スルモノトス

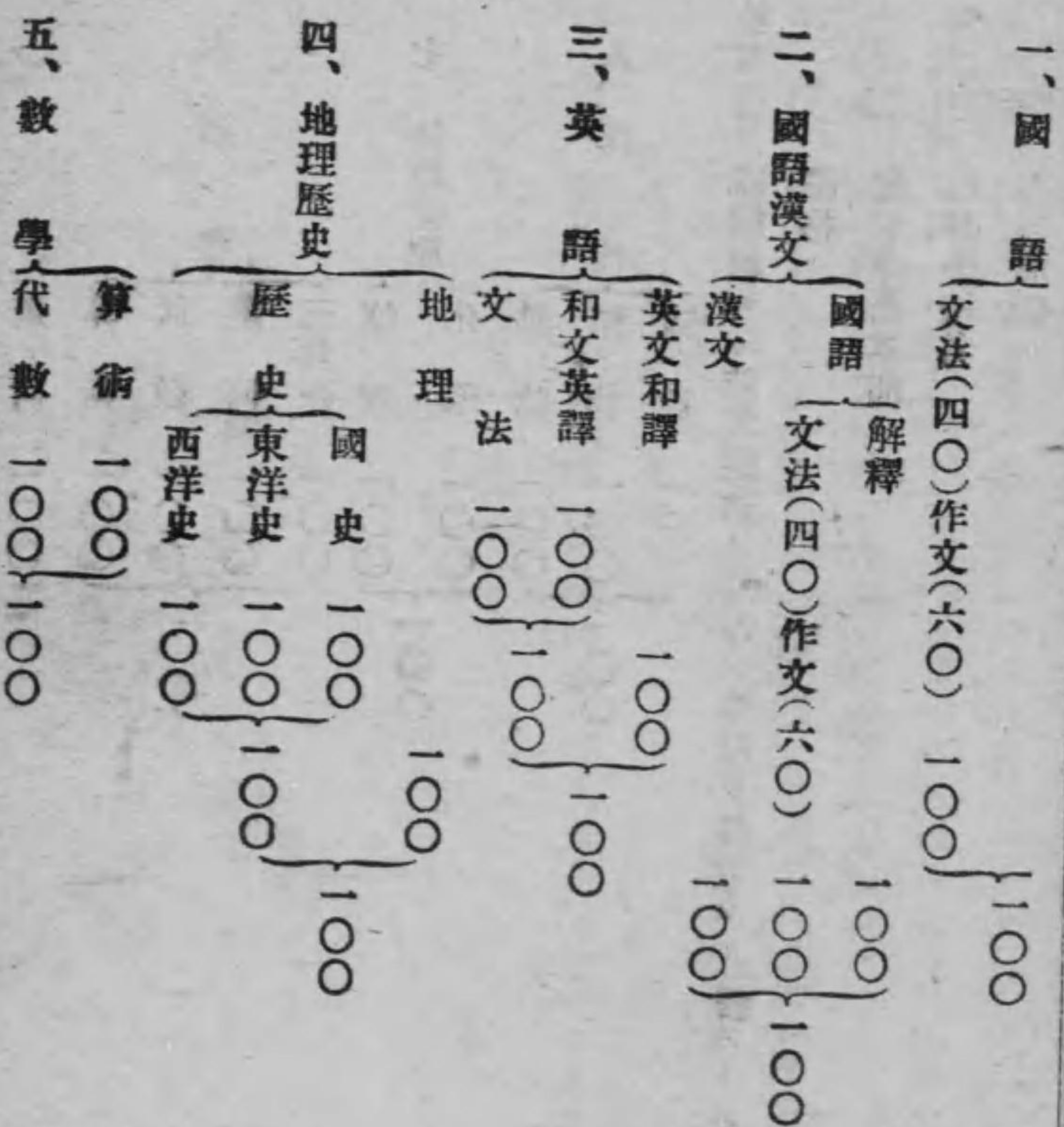
科別 第一類 第二類

文科	國語漢文、英語、數學	地理歷史
理科	國語、英語、數學	物理化學、博物
體育科	國語漢文、英語	體操、柔道又ハ劍道

第四條 入學試驗ノ各科目ノ評點ハ百點ヲ以テ滿點トシ左ノ標準ニヨリ其ノ評點ヲ定ムルモノトス

一解釋

一〇〇



第四章 本校諸規則 第一 本校諸規程 一二 入學ニ關者成績調査規程 三二〇三



第五條 成績表ニハ前條點數ノ外左ノ事項ヲ登載スルモノトス

(四) 志望部別	(三) 出身學校名	(二) 薦舉非薦舉別	(一) 體格	六、數 學			幾何	算術	代數	幾何	三角法	七、物理化學			八、博 物	
				—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
				—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
				—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
				—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
				—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
				—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
				—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
				—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

第六條 入學試驗委員ハ總會議ニ於テ成績表ニツキ入學ヲ許可セントスル者ヲ豫選シ更ニ其ノ履歷書、戶籍謄本、身體檢查書、學業成績書及人物考定書等ニ就キ人物、體格、戶籍關係及既往ノ學業成績ヲ調査シ候補者ヲ選拔ス

第七條 前條ニ依リテ選拔シタル候補者ニ對シテハ更ニ本校ニ於テ身體檢查及口頭試問(文科第三部志願者ニハ英語ノ口頭試問ヲモ行フ)ヲ行ヒ猶體育科入學志願者ニ對シテハ體操、柔道又ハ劍道ノ試験ヲ行ヒタル上入學ノ許否ヲ決ス

第八條 專修科入學志願者ノ成績調査ハ本内規ニ準スルモノトス



一三 研究會規程

第一條 本會ハ普通教育ノ改良上進ニ關スル一切ノ事項ヲ研究スルヲ以テ目的トス  
第二條 本會ノ部會及所屬學科ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一 修身教育部會  
修身、教育、倫理、論理學、心理學、社會學、哲學、家事
- 二 國語漢文部會  
國語、漢文、言語學
- 三 外國語部會  
英語、獨語、言語學
- 四 地理歷史部會  
地理、歷史、法制、經濟
- 五 數學部會  
數學、測量、簿記
- 六 物理化學部會  
物理學、化學、天文、氣象、家事
- 七 博物部會



八 體操部會

動物、植物、礦物、地質、農業、生理、衛生、家事  
普通體操、遊戲、兵式訓練、柔道、劍道、其他ノ體育

九 圖畫手工部會

圖畫、手工、裁縫

十 音樂部會

音樂

第三條 各部會ハ其所屬學科ニ就キ左ノ事項ヲ研究スルモノトス

一 教育的價值

二 教授細目

三 教科書

四 教授方法

五 教授用具

六 師範學校中學校高等女學校小學校ニ於ケル當該學科教授上ノ聯絡

七 右ノ外當該學科ノ教育上ニ關スル一切ノ事項

第四條 本校附屬中學校及附屬小學校ノ教官講師ハ本部會ノ一以上ニ入會スルモノトス

第五條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一 會長 一名 學校長之ニ當ル

一部會長 各一名 學科主任中ヨリ會長之ヲ委嘱ス

一部會幹事 各若干名 當該部會長ノ推薦ニヨリ會長之ヲ委嘱ス

第六條 各部會ハ毎月一回之ヲ開ク但シ事宜ニヨリ休會シ又ハ臨時會ヲ開クコトアルヘシ

第七條 各部會ハ必要ニ應シ數部共同ノ研究會ヲ開クコトアルヘシ

第八條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク各部會ニ於ケル研究ノ狀況ヲ報告シ其他必要ナル事項

ヲ協議スルモノトス

第九條 學校長ハ事項ヲ指定シテ其研究ヲ本會ニ命スルコトアルヘシ



一四 三大節拜賀式内規 (明治三十三年十二月定) (同三十六年十一月改正)

第一條 本校職員生徒及ヒ附屬學校職員生徒ハ新年紀元節天長節ニハ必ス一定ノ場所ニ於テ拜賀式ヲ行フ

第二條 三大節拜賀式次第ハ左ノ如シ (大正九年十月改正)

- 一 午前八時 (一月一日ニ限リ) (午前九時) 職員生徒式場ニ整列  
但シ喇叭ヲ以テ合圖ス
- 一 禮 職員生徒一同
- 一 唱歌(君が代(二回)) 職員生徒合唱  
但シ樂器ヲ以テ合圖ス
- 一 御影ニ對シ最敬禮 學校長職員生徒一同  
但シ樂器ヲ以テ合圖ス
- 一 勅語奉讀 學校長職員生徒一同
- 一 唱歌(勅語奉答ノ歌) 學校長職員生徒一同  
樂器伴奏
- 一 唱歌(當日ノ唱歌) 學校長職員生徒一同  
樂器伴奏

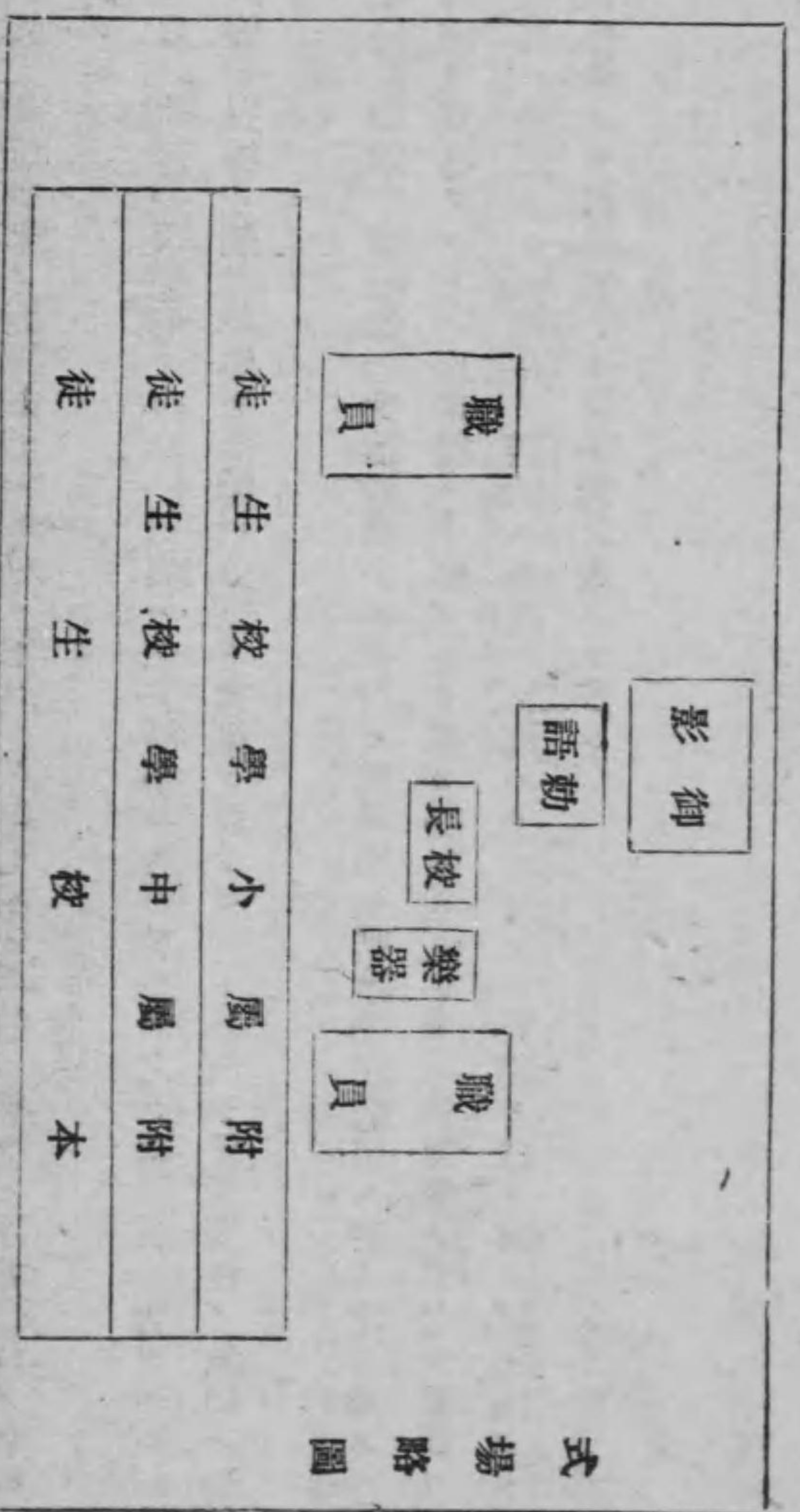
一 禮

職員生徒一同

但シ樂器ヲ以テ合圖ス

右終リテ一同退席

第三條 式場座席ノ順凡ソ左ノ如シ





第四條 生徒整列ノ指揮監督ハ本校ニ於テハ生徒監附屬學校ニ於テハ學級擔任ノ教員之ヲ爲スヘシ

第五條 生徒職員整列シ終レハ係員ハ之ヲ幹事ニ告ケ幹事ハ之ヲ學校長ニ告クヘシ

第六條 退場ノ順序ハ學校長職員生徒ト次第ヲ追フモノトス但シ學級擔任ノ教員ハ生徒ト共ニ退場スルモ妨ナシ

第七條 唱歌ノ指揮及ヒ樂器伴奏ハ本校及ヒ附屬學校唱歌擔任教員ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第八條 式場ノコトハ庶務課ノ主管タリト雖モ必要ニ應シテハ各課ニ於テ之ヲ補助スヘシ

第九條 職員ニシテ當日ノ儀式ニ參列スル能ハサルモノハ書面ヲ以テ其ノ旨届出ツヘシ但シ公務ニテ出張等ノモノハ此ノ限ニアラス

### 一五 三大節儀式入退場心得

一、式場ハ特別ノ場合ノ外ハ講堂ヲ以テ之レニ充ツ

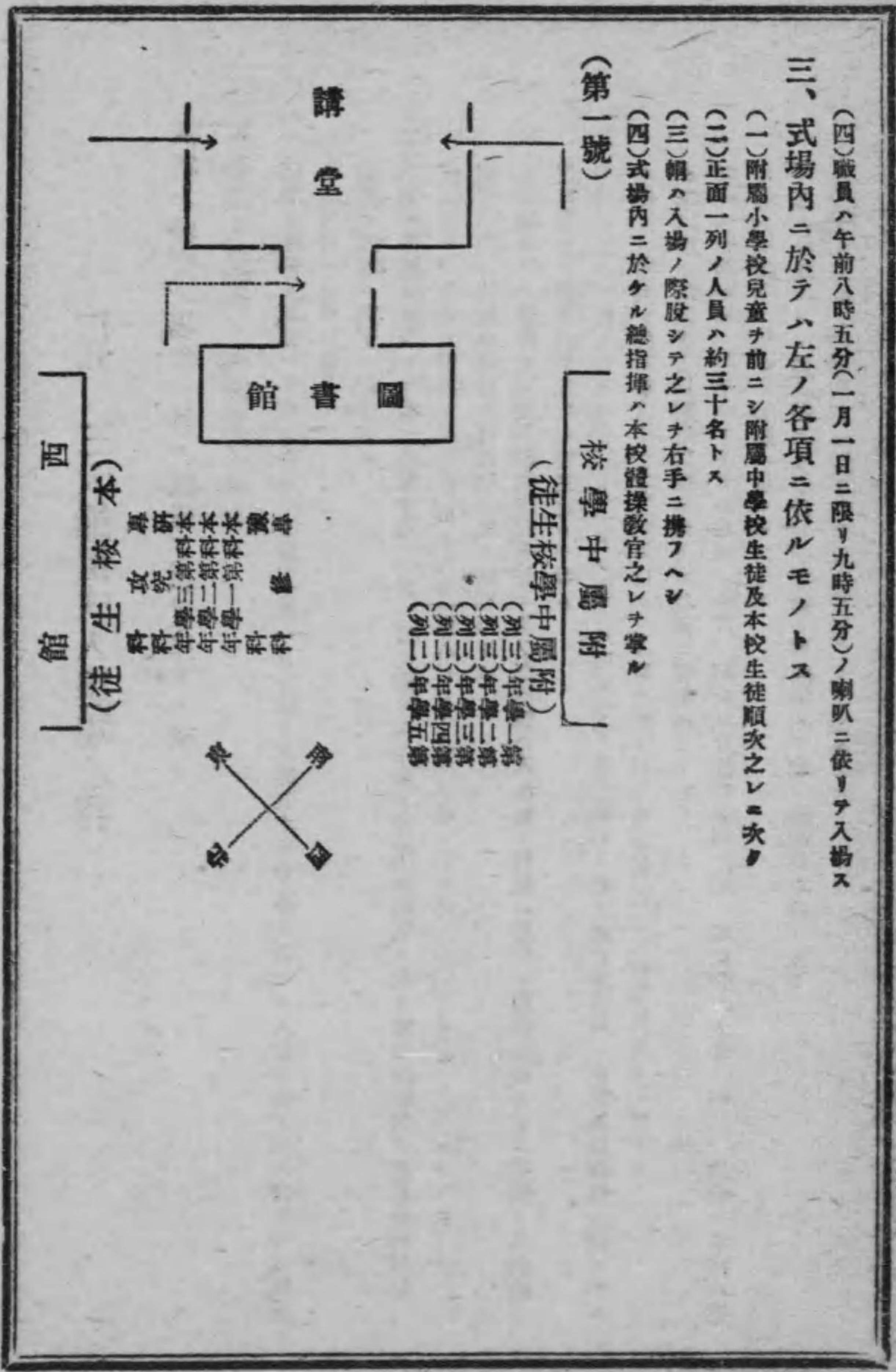
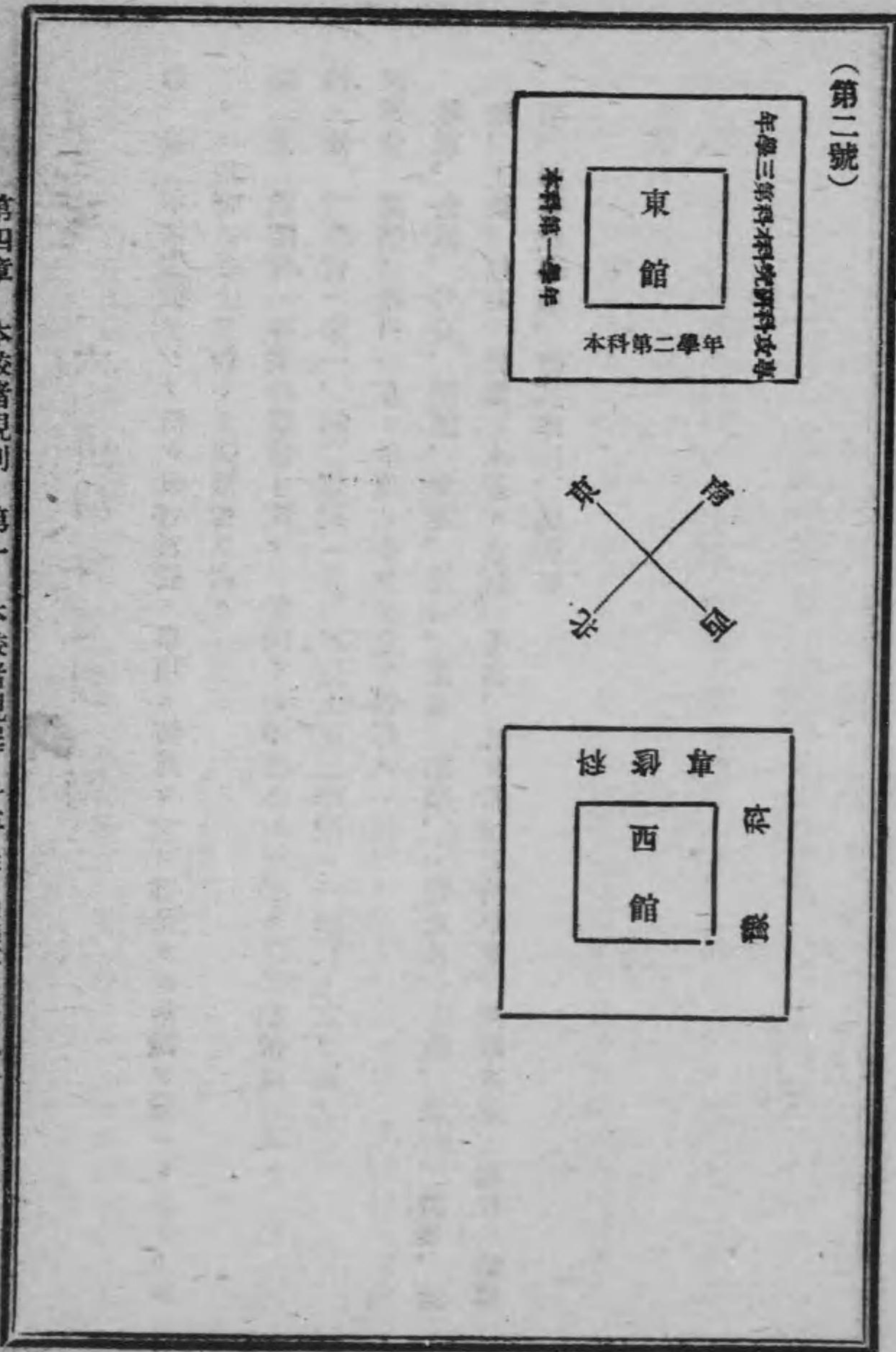
二、集合及入退場ノ次第左ノ如シ

(一)附屬小學校ノ兒童ハ午前七時五十五分(一月一日ニ限リ八時五十五分)北入口ヨリ入場ヲ始メ同八時五分(同上九時五分)マテニ結了ス  
雨具ハ式場ノ廊下ニ置カシム

(二)附屬中學校ノ生徒ハ午前七時五十分(一月一日ニ附リ八時五十分)集合喇叭ニ依リ圖書館西側ノ運動場別團第一號ニ示セル位置ニ整列シ同八時(同上九時)南入口ヨリ入場ヲ始メ同八時五分(同上九時五分)マテニ結了ス  
雨天ノ節ハ附屬中學校生徒控室ニ於テ整列セシム  
入退場ハ第一學年ヨリ始メ順次第五學年ニ及フ退場後ハ入場前ノ位置ニ整列シ指揮ヲ待タシム生徒ノ入退場ノ指揮監督ハ體操教官及學年擔任之レテ掌ル

(三)本校生徒ハ午前七時五十分(一月一日ニ限リ八時五十分)集合喇叭ニ依リ圖書館西側ノ運動場別團第一號ニ示セル位置ニ整列シ同八時(同上九時)西入口ヨリ入場ヲ始メ同八時五分(同上九時五分)マテニ結了ス  
雨天ノ節ハ東西廊下別團第二號ニ示セル位置ニ整列セシム  
整列ノ順序ハ同一學年ニアリテハ本科ハ學部、研究科及豫科ハ甲乙丙、専修科ハ入學ノ順序、豫科ハ本科ニ屬シ何レモ教室ニ於ケル席順ニ依ルモノトス  
入場ハ専攻科ヨリ始メ順次専修科ニ、退場ハ専修科ヨリ始メ順次専攻科ニ及フ  
生徒ノ入退場ノ指揮監督ハ體操教官及生徒監之レテ掌ル





三、式場内ニ於テハ左ノ各項ニ依ルモノトス

(一) 附屬小學校兒童ヲ前ニシ附屬中學校生徒及本校生徒順次之レニ次

(二) 正面一列ノ人員ハ約三十名トス

(三) 朝ハ入場ノ際脱シテ之レヲ右手ニ携フヘシ

(四) 式場内ニ於ケル總指揮ハ本校體操教官之レヲ奉ル



一六 講演會規程 (明治四十二  
年六月定)

- 第一條 本校生徒ヲシテ汎ク社會各般ノ事項ニ留意セシメ健全ナル常識ヲ養ハシメンカタ  
メニ朝野ノ名士ヲ聘シテ講演會ヲ開ク
- 第二條 講演會ハ課業時間内ニ開クヲ常例トシ學生ヲシテ必ス之ヲ聽講セシム
- 第三條 講演會ハ第一、第二學期ニ各二回以上第三學期ニ一回以上之ヲ開ク
- 第四條 講演ノ題目ハ左ノ事項ノ中ヨリ之ヲ選擇ス  
陸軍、海軍、外交、陸運、海運、通信、貿易、拓殖、一般民政、財政、銀行、農業、商  
業、工業、鑛業、林業、水産、宗教、美術、感化救恤互濟事業、刑事政策、司法一般事  
項、圖書館事項、禮式作法、國勢等

一七 職員生徒等實地研究旅費規程 (大正九年八  
月同濟改正)

- 第一條 職員學術實地研究又ハ生徒ノ指導ヲ要スル爲メ旅行ヲ命セラレタルトキハ別表第  
一號表ノ旅費ヲ支給ス
- 第二條 本校生徒修學旅行ヲ命セラレタルトキハ別表第二號表ノ旅費ヲ支給ス但外國學生  
及特別學生ニハ支給セス
- 第三條 守衛給仕小使常備人ニシテ隨行ヲ命セラレタルトキハ別表第三號表ノ旅費ヲ支給  
ス
- 第四條 修學旅行ヲ命セラレタル者中途ヨリ其旅行ニ加ハルトキハ其ノ日ヨリ旅費ヲ支給  
ス
- 第五條 修學旅行中一行ヲ離レタルトキハ其翌日以後ノ旅費ヲ支給セス但特別ノ事情ニ依  
リ指導職員ヨリ歸校ヲ命セラレタル者ハ此限ニアラス
- 第六條 修學旅行先ニ於テ生徒ヲ解散シタルトキハ其翌日以後ノ旅費ヲ支給セス
- 第七條 旅行中見込日程ヲ變更スルコトアルモ豫定以上ノ旅費ハ之ヲ支給セス但特別ノ事  
情アルモノハ此限ニアラス



第八條 學校長ハ時宜ニ依リ旅費ヲ増給又ハ減給スルコトアルヘシ

第九條 旅行ヲ命セラレタル者ハ出發ノ三日前迄ニ旅行見込書ヲ會計課ニ差出シ旅費ノ概算渡シヲ求ムルコトヲ得

第十條 旅行ヲ終ヘ歸校シタルトキハ二週間以内ニ旅行日程ヲ會計課ニ差出シ旅費ヲ請求シ又ハ精算ヲ遂クルモノトス

第十一條 本規程ノ外旅費ノ支給方ハ内國旅費規則並文部省及直轄各部雇員其他ノ旅費規則ニ依ル

第十二條 朝鮮臺灣樺太及外國ノ旅行ニ就キテハ其都度旅費額ヲ定ムルモノトス

第十三條 本規程ハ大正九年九月十一日ヨリ施行ス

別表 (第一號表)

等	級	鐵道費	船費	車馬費	一里	宿泊料	一付	一日	當
一、勲任官、講師 <small>(其本官勲任官ノモノ)</small>	一等實費	一等實費	三十錢	八	四	四	四	四	四
二、獎任官、講師 <small>(其本官獎任官ノ者、又ハ手當年額千六百圓以上ヲ受クル者、又ハ從六位、勲六等、功五級以上ノ者及學位ヲ有スル者)</small>	二等實費	二等實費	二十五錢	六	四	三	四	四	四
三、判任官、講師 <small>(其本官判任官ノ者、又ハ手當月額五十圓以上ヲ受クル者、又ハ正七位以下、勲七等以下、功六級以下ノ者)</small>	二等實費	二等實費	二十錢	四	四	十錢	二	四	四

(備考) 鐵道賃船賃ノ一等又ハ二等賃費ヲ給スルハ當該等級ノ設アル場合ニ限ル場合ニヨリ普通急行料金ヲ支給スルコトアルヘシ

四、副手、雇	月額五十圓以上ノ者	講師(前各號ニ該囑託當セサル者)	三等實費	三等實費	十五錢	三 <th>四 <th>一圓十錢</th> </th>	四 <th>一圓十錢</th>	一圓十錢
五、雇	月額五十圓未滿ノモノ		三等實費	三等實費	十五錢	二圓十錢	一	圓

別表 (第二號表)

講師及囑託ニシテ一時手當ヲ給スル者又ハ手當ヲ給セサル者ハ其爵位勲功學位等ニ依リ前各號ノ區別ニ依ル但數種ノ資格ヲ併有スル者ハ高キニ從ヒ其額ヲ定ムルモノトス

生徒	鐵道賃	船賃	日當及	宿泊料
	三等實費	三等實費	二	圓

別表 (第三號表)

守衛、給仕、小使、常備	鐵道賃	船賃	車馬賃	宿泊料	日當
	三等實費	三等實費	十錢	二	圓
					五十錢



一八 生徒學費支給規程 (大正九年九月制定)

第一條 學費ハ生徒ノ志望ニ基ツキ學力品行及家庭ノ事情ヲ考査シ相當ト認メタルモノニ對シ之ヲ支給ス

第二條 學費ハ入學ノ月ハ入學ノ日ヨリ退學及卒業ノ月ハ退學及卒業ノ日マテ日割ヲ以テ支給ス

第三條 學費ハ當月分ヲ翌月十日迄ニ支給ス

第四條 休學及停學期限中ハ學費ヲ支給セス但退校及歸校ノ日ノ學費ハ之ヲ支給ス

附 則

本規程ハ大正九年四月分ヨリ之ヲ適用ス

一九 生徒療養費支給規程 (明治三十五年十二月制定)

第一條 本科、豫科、官費專修科、官費研究科生ニシテ重患若クハ傳染病ニ罹リ官、私立ノ病院ニ入院ヲ命シタルトキ又ハ校外ノ醫師ヲシテ治療セシメタルトキハ本規程ニ依リ療養費ヲ支給ス

第二條 前條ノ入院科ハ東京帝國大學醫科大學附屬ノ醫院ニ在リテハ三等入院料ヲ私立病院ニ在リテハ下等入院料ヲ支給ス但シ傳染病ニシテ本文ノ費額ヲ超過シタルトキハ實費ヲ支給スルコトヲ得

學校長ニ於テ其病性ニヨリ特ニ入院料以外ニ要シタル費用ニシテ相當ト認ムルトキハ前項ノ外實費ヲ支給スルコトヲ得

第三條 入院治療ヲ命スルハ病性ノ如何ニ拘ラス總テ二週間以内トス

第四條 東京帝國大學醫科大學附屬ノ醫院又ハ私立病院ニ入院ヲ命シタルモ三等室又ハ下等室滿員ノ爲メ實際差支ヘヲ生シタルトキハ二等又ハ中等ニ入院セシム

第五條 病性ニ依リ入院ヲ命スルニ至ラサルモ校外専門醫ヲシテ治療セシムルトキハ診察料、藥價、施術料ヲ支給ス



第六條 夜間又ハ囑託校醫ノ不在中疾病ニ罹リ若クハ負傷シタルトキ招喚ノ暇ナク且ツ急治ヲ要スル場合ニ於テ校外醫ヲシテ治療セシメタルトキハ前條ニ依リ支給ス

二〇 授業費償還ニ關スル事項 (明治四十三年三月定 同四十四年四月改定)

- 一 明治二十七年文部省令第十一號高等師範學校規程第八條ニ依リ償還セシムヘキ授業費
  - 一 豫科 月額金五圓
  - 一 本科 (國語漢文部、英語部、地理歴史部) 月額金五圓
  - 一 本科 (數物化學部) 月額金八圓
  - 一 研究科 研究科目ニ依リ月額金五圓又ハ金八圓
  - 一 專攻科 學部ニ依リ月額金五圓又ハ金八圓
  - 一 專修科 (文科兼修體操、學) 月額金五圓
  - 一 專修科 (圖畫、手工) 月額金八圓
- 二 明治四十二年文部省令第二十五號高等師範學校卒業者服務規則第四條ニ依リ償還セシムヘキ授業費
  - 一 本科 (國語漢文部、英語部、地理歴史部) 卒業者 金二百四十圓
  - 一 本科 (數物化學部) 卒業者 金三百六十圓
  - 一 文科兼修體操專修科卒業者 金二百四十圓



一 數學專修科卒業者  
一 圖畫手工專修科卒業者

金百八十圓  
金三百圓

四〇ノ二

## 二一 生徒獎學規程 (大正三年十一月何定)

第一條 生徒ノ獎學ヲ別テ左ノ二種トス

一 學術優等品行方正ニシテ他ノ生徒ノ模範トナルヘキ者ノ獎學

二 多年教職ニ從事シタル者ノ子ニシテ相當ノ成績ヲ有シ品行方正ニシテ給與ヲ受クル必要アル特別ノ事情アル者ノ獎學

第二條 前條各號ノ一ニ該當スル者ニハ獎勵金毎月金拾圓以內ヲ給ス

第三條 獎勵金給與ノ期間ハ第一條第一號ニ該當スル者ニ付テハ一學年トシ第二號ニ該當スル者ニ付テハ其ノ卒業ニ至ルマテトス但シ其ノ期間內ト雖モ品行不良若クハ學業懈怠ト認メタル者及休學中ノ者ハ給與ヲ止ム

第四條 學校長ハ每學年ノ終リニ於テ生徒ノ成績等ヲ調査シ次學年ニ於テ獎勵金ヲ給與スヘキ者ヲ選定ス



一一一 學資貸與規程 (明治四十四年五月定)

- 第一條 本校生徒中學資支辨ノ途ナキ者ハ本規程ニ依リテ特ニ其ノ學資ヲ貸與スルコトアルヘシ
- 第二條 前條ノ資金ハ茗溪會獎學資金ヲ以テ之ニ充ツ
- 第三條 學資ノ貸與ハ本人ノ出願ト校長ノ認定トニ依リテ之ヲ決ス
- 第四條 學資ノ貸與ヲ受ケントスル者ハ保證人二名ノ連署ヲ以テ校長ニ願出ツヘシ
- 前項ノ保證人ハ東京市内ニ於テ一戸ヲ構ヘ且ツ相應ノ資産ヲ有スル者タルヘシ
- 第五條 學資ノ貸與ヲ受クル者ハ左ノ書式ニ依リ誓約書ヲ差出スヘシ

收入  
印紙

誓約書

私儀本月ヨリ毎月金何圓學資ノ貸與ヲ相受候ニ付テハ御校學資貸與規程ヲ遵守シ決シテ違背不仕候儀テ保證人連署誓約仕候也

年 月 日

東京高等師範學校、科生  
本 人 何 某 ●  
住所族籍

某 ●

一三六

一三七

- 第六條 學資ノ貸與ヲ受ケタル者ハ其ノ卒業ノ翌日ヨリ起算シ貸與ヲ受ケタル月數ヲ二倍セル期限内ニ於テ其ノ貸與ヲ受ケタル金額ヲ月賦ヲ以テ茗溪會ニ返納スヘシ
- 第七條 學資ノ貸與ヲ受クル者學業ヲ怠リ品行修マラス又ハ休學トナリ其ノ他校長ニ於テ成業ノ見込ナシト認メタルトキハ其ノ貸與ヲ廢止ス
- 第八條 前條ニ依リテ學資ノ貸與ヲ廢止セラレ又ハ退學ヲ命セラレ若クハ自己ノ便宜ニ依リテ退學シタル者ハ其ノ貸與ヲ受ケタル學資全額ヲ一時ニ茗溪會ニ返納スヘシ
- 第九條 病氣ノ爲メ成業ノ見込ナシト認メ學資ノ貸與ヲ廢止シタルトキハ其ノ貸與ヲ受ケタル學資金ヲ其ノ翌月ヨリ月賦ヲ以テ第六條ノ例ニ依リテ茗溪會ニ返納スヘシ
- 但シ特別ノ事情アルモノハ詮議ノ上之ヲ免除スルコトアルヘシ
- 第十條 學資ノ貸與ヲ受ケタル者死亡シタルトキハ其ノ學資ヲ返納スルニ及ハス
- 但シ生前月賦返納延滞ノ金額アルトキハ保證人ニ於テ之ヲ辨償スルモノトス
- 第十一條 保證人死亡シ又ハ東京市外へ轉居スルカ若クハ其ノ資産ヲ失ヒタルトキハ速ニ代人ヲ立テ誓約書ヲ書換フヘシ

保證人

何

某 ●

同

何

某 ●

東京高等師範學校長

何 某 殿



一三 生徒服制

(一) 生徒服制 (明治四十四年三月伺濟改正同年六月一日ヨリ實施) (大正五年十一月同八年十二月同九年六月伺濟改正)

一 冬服 黒又ハ紺綾羅紗、立襟背廣形、金釦付(第一號圖式) 着用期限 十月一日ヨリ五月三十一日ニ至ル

一 夏服 鼠、紺「セル」又ハ霜降り小倉、立襟背廣形、金釦付(第一號圖式) 着用期限 六月一日ヨリ九月三十日ニ至ル

一 帽子 地質黒絨 海軍形

一 釦 全形五三ノ桐葉形(全形一吋一分)ヲ金色トシ中央ニ高師ノ二字ヲ磨キ出ス(第二號圖式)

一 釦 金色圓形(前釦ノ直徑七分 袖釦ノ直徑四分五分)凸面ニ全形五三ノ桐葉形ノ中央ニ高師ノ二字ヲ置キテ刻ム(第二號圖式)

一 襟章 豫科ヲY、本科ヲH、研究科ヲK、專攻科ヲSK、專修科及撰科ヲSトス

第一號圖式 上衣





第二號圖式

帽章



前釦



袖釦



袴





(二) 略 朝 内 規 (明治四十五年五月制定  
大正九年六月何濟改正)

- 一 地 質 麥 稈
- 一 鉢 卷 黒 色
- 一 高 サ 二 寸 五 分 位
- 一 縁 幅 二 寸 位
- 一 着 用 期 間 夏 服 着 用 期 間

二四 生徒服装心得 (明治三十七年  
十月制定)

本校生徒ハ式場及ヒ會合ノ場合ニ於ケル服装ニ關シ左ノ通り心得ヘシ

一 三大節拜賀式及ヒ卒業式ニ參列スル時ハ勿論校命ニ依リ講堂或ハ其他ノ場所ニ參集スル場合並ニ校友會、大運動會、校友會大會又ハ校外ノ人士ヲ招聘シテ開催スル校友會談話會ニ參會スル時ハ必ス制服ヲ着用シ容儀ヲ正シクスヘシ

一 校長或ハ他ノ職員ト生徒トノ談話會、寄宿舎懇話會、校友會ノ各部カ本校構内ニ催ス會合及ヒ生徒ノ間ニ組織セル學會等ニ出席スル場合ニハ和服ヲ着用スルコトヲ得但シ此場合ニ在リテハ必ス袴ヲ着用スルモノトス



二五 生徒受業心得 (明治三十七年四月定  
四十四年十二月改正)

- 第一條 各部學年(各學年ニシテ數組ニ分レタル場合ニハ各組ヲ以テ一學級トス以下做之)  
ニ級長副級長各一名ヲ置ク
- 第二條 級長ハ教官講師ヲ助ケテ教室ノ整理及室内ニ於ケル生徒ノ取締又ハ學校ノ示達ヲ  
傳フル等ノコトニ從フヘシ
- 副級長ハ級長ヲ助クルモノトス
- 第三條 級長副級長ハ每學年ノ始メニ於テ學校長之ヲ命ス
- 第四條 (削除)
- 第五條 級長ハ其任務ヲ果ス爲メ他ノ生徒ヲシテ補助ヲ爲サシムルコトヲ得
- 第六條 各授業時間ノ始終ハ喇叭ヲ以テ合圖ス但午前及午後ノ最初ノ授業時間ニハ始業ノ  
十分前ニ用意ノ合圖ヲ爲ス
- 第七條 生徒ハ始業ノ合圖ニテ直チニ教室ニ入り座席ニ着クヘシ
- 第八條 授業始終毎ニ生徒ハ教官講師ニ向ヒテ齊シク立禮スヘシ
- 第九條 授業終リタルトキハ生徒ハ直チニ教室ヲ退クヘシ但級長ハ教室内ヲ整理シタル後

ニ於テスヘシ

- 第十條 生徒ハ課業時間外ニ於テ教室内ニ入ルコトヲ得ス但必要ニ依リ教官講師ノ許可ヲ  
得タルモノハ此限ニアラス
- 第十一條 級長ハ教室内ニ於ケル窓掛ノ開閉、塗板ノ拂拭、暖爐ノ取扱、机ノ配列等ニ注  
意スヘシ

附 則

- 第十二條 本規則ハ明治三十七年四月一日ヨリ施行ス
- 第十三條 明治三十三年七月改正教室取締内規ハ本規則施行ノ日ヨリ廢止ス



一一六 生徒缺課内規

(明治四十五年六月改定)

- 第一條 左ノ場合ニハ當日課業ノ全部若クハ一部ノ缺席ヲ許ス
  - 一 校醫(外泊通學者ニアリテハ其ノ主治醫)ノ診斷ニ依リ缺課ヲ要スル場合
  - 一 臨時發病ノ爲メ課業ニ堪ヘサル場合
- 第二條 左ノ場合ニハ本人ノ請願ニ依リ當日課業ノ全部若シクハ一部ノ缺席ヲ許スコトアルヘシ
  - 一 學友ノ病氣ニ罹リ本人ノ看護ヲ要スル場合
  - 一 市内ニ於ケル近親、舊師若シクハ保證人ノ重病ニ罹リ本人ノ看護ヲ要スル場合
  - 一 舊師若クハ保證人死去ニ付キ會葬セントスル場合
  - 一 其ノ他生徒監ニ於テ必要アリト認メタル場合

一一七 生徒喪暇内規

(明治四十五年六月制定)

- 第一條 生徒ノ父母祖父母兄弟姉妹妻子其ノ他校長ニ於テ特別ノ關係アリト認ムル親族死去シタル時ハコノ内規ニ據リテ喪暇ヲ與フルモノトス
- 第二條 第一條ニ掲クル所ノ親族死去セル場合ニハ其ノ生徒ヲシテ直ニ之ヲ校長ニ届出テシムルモノトス
- 第三條 父母ノ喪暇ハ凡七日祖父母兄弟姉妹及ヒ妻子ノ喪暇ハ凡五日其ノ他特別ノ關係アル親族ノ喪暇ハ五日以内トシ校長之ヲ指定ス
- 但シ前項ノ例ニ據リ難キ場合ニハ之ヲ斟酌スルコトアルヘシ
- 第四條 喪暇期間ハ本人カ計音ニ接シタル日ヨリ起算スルモノトス
- 第五條 喪暇期間中ハ本人ノ請願ニヨリ歸省又ハ外泊ヲ許可ス
- 但シ此場合ニハ往復ニ要スル日數ヲ加算スルモノトス
- 第六條 葬式ノ當日ハ喪暇期間外ト雖モ缺課セシム
- 第七條 父母ノ忌日及祭日ニハ缺課スルコトヲ許ス



一七八 生徒會葬內規 (明治四十五年六月制定)

- 第一條 校長教官講師若シクハ其ノ近親死去ノ場合ニハ此內規ニ據リ生徒ヲシテ會葬セシム
- 第二條 現任校長及其ノ父母死去ノ場合ニハ全校生徒ヲシテ會葬セシメ又其ノ祖父母及其ノ妻子死去ノ場合ニハ各學級ヨリ各一名ヲ總代トシテ會葬セシム
- 第三條 現任教授及助教死去ノ場合ニハ全校生徒ヲシテ會葬セシメ又其ノ父母祖父母及妻子死去ノ場合ニハ教授ヲ受ケタル學級ヨリ各一名ヲ總代トシテ會葬セシム
- 但シ(一)學級主任タル教官及講師ノ父母死去ノ場合ニハ其ノ擔任學級ノ生徒ハ全部會葬セシメ(二)幹事及生徒監ノ父母祖父母及妻子死去ノ場合ニハ各學級ヨリ各一名ヲ總代トシテ會葬セシム
- 第四條 現任講師死去ノ場合ニハ教授ヲ受ケタル生徒ヲシテ悉皆會葬セシメ又其ノ父母祖父母及妻子死去ノ場合ニハ各教授ヲ受ケタル學級ヨリ各一名ヲ總代トシテ會葬セシム
- 囑託及其近親死去ノ場合ハ之ニ準ス
- 第五條 本校庶務課教務課及會計課長并ニ寄宿舍事務員死去ノ場合ニハ各學級ヨリ各一名

- ヲ總代トシテ會葬セシメ又其ノ父母妻子及本校各課事務員死去ノ場合ニハ生徒一名ヲ總代トシテ會葬セシム
- 第六條 退職校長死去ノ場合ニハ各學級ヨリ各一名ヲ總代トシテ會葬セシム
- 第七條 退職教授助教及ヒ講師死去ノ場合ニハ教授ヲ受ケタル學級ヨリ各一名ヲ總代トシテ會葬セシム

附則

- 第八條 第二條以下ニ於テ假葬施行ノ場合ニハ其ノ宅ニ就キ弔詞ヲ呈セシムルニ止ム



二九 外國學生受業心得 (明治四十三年)

- 第一條 外國學生中ニ總代三名ヲ置キ學校長之ヲ命ス
- 第二條 總代ハ外國學生ニ學校ノ示達ヲ傳フル等ノコトニ從フヘシ
- 第三條 外國學生ハ本校生徒ト同シク喇叭ヲ以テ報スル始業ノ合圖ニテ教室ニ入り所定ノ座席ニ着キ授業ノ始終毎ニ教官講師ニ向ヒテ齊シク立禮シ授業終リタルトキハ直ニ教室ヲ退キ課業時間外ニ於テハ特ニ教官講師ノ許可ヲ得タル場合ノ外教室ニ入ルコトヲ得ス
- 第四條 受業ヲ許サレタル科目ハ終了ニ至ルマテ變更スヘカラス但相當ノ理由アリテ特ニ許可ヲ得タルトキハ此限リニアラス
- 第五條 受業ヲ許サレタル科目ニツキテハ本校生徒ト同シク試験ヲ受クヘシ
- 第六條 缺席セントスルトキハ書面ヲ以テ届出ツヘシ又缺席七日以上ニ涉ルトキハ病氣ノ場合ニハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘク事故ノ場合ニハ豫メ事由ヲ具シテ願出テ許可ヲ受クヘシ
- 第七條 無届缺席一箇月以上ニ及フ者ハ除籍スルコトアルヘシ
- 第八條 宿所ハ入學ノ際書面ヲ以テ届出テ變更ノ節ハ即日届出ツヘシ
- 第九條 常ニ揭示場ニ注意スヘシ

三〇 生徒見學規程 (大正二年)

- 第一條 生徒見學ハ分チテ一般見學特別見學ノ二種トス
- 一般見學ハ寄宿舎職員之ヲ引率シ豫科及ヒ本科各學年ノ生徒ヲシテ之ヲ爲サシムルモノトス
- 特別見學ハ學部ノ種類ニ依リ關係職員之ヲ引率シ隨時ニ之ヲ爲サシムルモノトス
- 第二條 見學ハ可成休業日ヲ利用シ其ノ日割及ヒ場所ハ一般見學ニ於テハ生徒監特別見學ニ於テハ學級主任關係教官生徒監ト協議ノ上學年ノ始メニ於テ之ヲ定メ校長ニ申報スルモノトス
- 但シ課業ヲ缺ク場合ニ於テハ校長ノ決裁ヲ經ルモノトス
- 第三條 生徒見學ノ場所ハ別ニ定ムル所ニ依ル
- 第四條 專修科ノ見學ニ關シテハ設置ノ都度便宜之ヲ定ム



三一 修學旅行内規 (明治三十三年十二月定)

- 一 修學旅行ヲ命セラレントスル時ハ教務課ニ於テ其ノ生徒ノ員數、引率職員、旅行ノ目的、旅行ノ地名、日數及ヒ出發期並ニ旅費ノ支給方ヲ調査シ(庶務課、會計課ノ合議)學校長ノ決裁ヲ受クヘシ但學術研究ノ爲メ出張ヲ命セラル、場合モ總テ本内規ニ據ルモノトス
- 二 會計課ハ前項ノ合議ヲ受ケタル時ハ旅費ノ支出上差支ナキヤ否ヤヲ調査シ其ノ異議アルモノハ意見ヲ付スヘシ
- 三 教務課ハ前項ノ調書學校長ノ決裁ヲ得タル時ハ引率職員ノ兼務者ニ係ルモノハ其ノ本務ノ廳衙若シクハ學校等へ照會ノ上其ノ回答書類ヲ添ヘテ之ヲ(六日以上ノ旅行ニ涉ルモノハ出發ノ十日以前)庶務課ニ回付スヘシ
- 四 庶務課ハ前項調書ノ回付ヲ受ケタル時ハ本省ニ對スル何又ハ届並ニ其ノ他必要ナル照會等ノ案ヲ起シ(教務課、舍務係ノ合議)學校長ノ決裁ヲ經ルモノトス
- 五 庶務課ハ前項伺書ニ對スル指令書ヲ得タル時ハ前合議シタル各課ヲ經テ一覽ニ供スルモノトス

- 六 教務課ハ前項供閱濟ノ上ハ其ノ旅行スヘキ學級及ヒ其ノ他必要ノ事項ヲ揭示場ニ揭示シ并ニ旅行ノ爲メニ休講スヘキ教官講師及ヒ會計課ニ之ヲ通知スヘシ
- 七 庶務課ハ五項ノ供閱終リタル時ハ學校長ノ決裁ヲ得テ其ノ旅行スヘキ職員ニ旅行ノ命令書ヲ發シ後之ヲ會計課ニ通知スルモノトス
- 八 旅行ノ命令ヲ承ケタルモノハ其ノ旅行先ニ豫メ照會等ヲ發スルノ要アル時ハ其ノ旨庶務課ニ申出ツヘキモノトス
- 九 旅行ヲ命セラレタルモノハ其ノ旅行日程ヲ作り教務課ヲ經テ一覽ニ供シ且ツ之ヲ生徒ニ示スヘシ
- 十 旅行ヲ命セラレタルモノハ旅行見込書ヲ會計課ニ出シ旅費ノ概算拂ヲ求ムルコトヲ得
- 十一 職員(連名ニテモ差支ナシ)ハ出發ノ當日又ハ前日ニ書面ヲ以テ之ヲ學校長ニ届出ツヘシ
- 十二 職員ハ旅行中各生徒ノ操行ニ注意スヘキハ勿論ナレトモ出發ヨリ歸校マテノ間ハ引率職員ニ於テ一切ノ實務ニ任スヘシ
- 十三 旅行日程ハ引率職員ニ於テ命令ヲ受ケタル日限ト地方トノ範圍内ニ於テ隨意之ヲ定



ムルヲ得ヘシト雖モ其ノ順路ハ可成迂廻セサルヲ要ス

十四 旅行ヲ命セラレタルモノ中途ヨリ其ノ旅行ニ加ハル時ハ加ハリタル當日ヨリ旅費ヲ支給ス

十五 生徒ニシテ自己ノ都合ニ依リ一行ヲ離ル、コトハ之ヲ許サ、ルヲ法トス萬一事情止ムヲ得サルトキハ之ヲ許スコトアルヘシト雖モ一行ヲ離レタル以後ノ旅費ハ之ヲ給セス但病氣ニ依リ歸校ヲ命シタル時ハ此ノ限りニアラス

十六 旅行中ハ生徒ヲ解散スルコトヲ得ス但夏期等ノ休業ニ際シ歸校ヲ要セサル場合ニ於テ豫メ學校長ノ許可ヲ得タルモノハ此ノ限りニアラス

十七 課業ニ差支ヘサル範圍ニ於テ出發又ハ歸校ノ日限ヲ變更スルノ要アル時ハ豫メ學校長ノ許可ヲ受ケ且ツ舍務係ニ其ノ旨通知スヘシ但此ノ場合ニ於テモ日限以外ノ旅費ヲ給セス

十八 旅行中職員ニ於テ處決シ難キ異常ノ事變ニ遭ヒタル時ハ電報又ハ書面ヲ以テ學校長ノ指揮ヲ受クヘシ

十九 旅行ノ職員(連名ニテモ差支ナシ)歸校シタル時ハ書面ヲ以テ之ヲ學校長ニ届出ツヘシ

二十 職員ハ旅行ノ狀況ヲ書面(日記)ニ認メ歸校後二週間以内ニ學校長ニ復命スヘシ尤モ生徒ニハ別ニ詳細ナル日記ヲ作ラシメ檢閲ノ上之ヲ學校長ニ報告セシムヘシ但兵式操練若シクハ運動ノ目的ヲ以テ宿泊セサル旅行ハ此ノ限りニアラス

二十一 旅行ヲ爲シ歸校シタル時ハ慰勞トシテ其ノ翌日ノ授業及ヒ課業ハ休業トス

二十二 旅行ヲ終ヘ歸校シタル時ハ二週間以内ニ旅行日記ヲ製シテ會計課ニ出シ旅費ヲ請求シ又ハ精算ヲ遂クルモノトス



三二一 生徒課業等取締内規 (明治四十五年四月定)

- 一 研究科生徒ニシテ本校又ハ附屬學校ノ授業等ヲ囑託シタル者ハ其ノ業務ノ性質ニ依リ之ヲ課業ニ代ヘシムルコトアルヘシ
- 但シ學年ノ終ニ於テ卒業論文ヲ提出セシムルコトハ一般研究科生徒ト同シ
- 二 本科生徒ニシテ隨意科ヲ選ヒタル者ハ學年ノ半途ニ於テ之ヲ廢スルコトヲ得ス但シ獨逸語ニ限リ第一學年第一學期ノ終リニ於テ之ヲ廢スルコトヲ得
- 三 本校生徒ハ家庭教師講習會講師トナリ又ハ官公私立學校等ノ囑託ヲ受クルコトヲ得ス但シ特別ノ事情アルトキハ本人ノ願出ニ依リ詮議ノ上特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ
- 研究科生徒ハ其ノ課業時間ニ差支ナキ場合ニ限リ一週十二時間以内學校長ノ許可ヲ得テ公私立學校等ノ囑託ニ應スルコトヲ得
- 四 本校生徒ハ學校長ノ許可ヲ受クルニアラサレハ他ノ學校等ニ於テ課業ヲ受クルコトヲ得ス
- 五 本校寄宿舎ニ在ラサル生徒ハ其ノ宿所ヲ生徒監ニ届出ツヘシ其ノ變更ノ都度亦同シ

三三三 物品會計取扱細則 (明治三十四年五月何定)

- 第一條 本校ニ屬スル物品ノ保管及出納ハ物品會計規則并ニ文部省直轄各部物品會計規程ニ基キ此ノ細則ニ依リ處理スヘシ
- 第二條 物品ハ備品(普通備品、圖書、機械、標本ヲ含ム)消耗品ノ二種トシ又備品ノ各室共用ニ係ルモノヲ共用備品トシ職員各自ニ専用スルモノヲ専用備品トス但備品消耗品ノ種別ハ別表ノ範圍ニ依リ區分スヘシ
- 第三條 物品ノ出納命令ハ支出傳票ノ表面ニアル學校長ノ檢印又ハ其他ノ文書ヲ以テスヘシ
- 生産品及寄贈ニ係ル物品ハ其品名數量及見積代價ヲ付シ學校長ニ上申スヘシ
- 附屬中學校小學校ヘ寄附ノ圖書、機械、標本等アルトキハ當該主事委任ノ範圍ニ於テ前項ノ手續ヲナスト同時ニ會計課ニ通知シ更ニ第七條ノ手續ヲナスヘシ
- 第四條 會計課ニ於テ受入レタル物品ハ直ニ各出納簿ニ登記シタル後各監守者ニ配付スヘシ
- 第五條 前條ニ依リ會計課ニ於テ現品ヲ交付スルトキハ普通備品ニ屬スルモノハ番號ノ通



知書ヲ現品ニ添付シ監守者ニ送付スヘシ但專用品ニハ番號ノ右方ニ專用ノ二字ヲ加添スヘシ

圖書、機械、標本等ハ各監守者ニ於テ各自一定ノ番號ヲ附記スヘシ

第六條 監守者ハ各自ニ備品監守簿、消耗品受拂簿ヲ備付ケ前條ノ配付ヲ受ケタルトキ又ハ第三條第二第三兩項ノ手續ヲナシタルトキハ直ニ各相當口座ニ品名數量番號領收(傳票日付)生産寄附ノ年月日ヲ記入シ現品ト對照シ其、交付ニ係ルモノハ請求書ニ領收ノ印ヲ捺シ會計課ニ送付スヘシ但備品ハ其備ヘ付ケ場所ヲ備考欄内ニ摘記シ所在ヲ明カニスヘシ

第七條 監守者ハ受入保管ノ備品ニアリテハ必ス第五條ノ通知書ニ基キ洩レナク番號ヲ貼付シ消耗品ニアリテハ其ノ受拂ヒヲ明瞭ニスヘシ

第八條 物理、化學、農學、地學、動植物ノ器械標本類ニシテ番號札ヲ貼付スル能ハサルモノハ適當ノ方法ヲ設ケ各監守者ニ於テ之レカ記號ヲ附スヘシ但私有ニ屬スルモノハ一定ノ場所ヲ定メテ保管シ決シテ公物ト混同スヘカラス

第九條 監守者ノ監守又ハ取扱ニ屬スル物品ニ關シテハ文部省直轄各部物品會計規程第十三條ノ責ニ任スヘシ

第十條 備品ノ貸與ヲ請フモノアルトキハ何人ト雖モ備品貸付簿へ品名數量番號年月日氏名ヲ記シ檢印シタル上ニアラサレハ貸與スルコトヲ得ス但本文ノ手續キヲナシタルモノト雖モ復貸與ヲナスコトヲ許サス

第十一條 甲監守者ノ監守スル物品ニシテ不用ニ屬スルモ乙監守者ニ於テ必要ナルモノアルトキハ甲乙監守者ヨリ其旨會計課ニ通知シ保管ノ轉換ヲナスヘシ

第十二條 第十條ノ貸與品ニシテ亡失毀損セシ者アルトキハ直ニ借受人ヨリ現品又ハ代金ヲ以テ辨償セシムヘシ

第十三條 監守者ハ使用中ノ物品ニシテ自然ニ毀損シタルトキ其ノ修理ノ見込ミナルモノハ現品ヲ添ヘ會計課ニ申出ツヘシ

第十四條 會計課ハ前項ニ依リ直ニ修理ノ手續キヲナシ出來ノ上ハ原監守者ニ渡スヘシ

自然ノ毀損品ニシテ修理ノ見込ナシト認ムルモノ若クハ不用トナリタル物品ハ會計課ニ返付シ監守簿ノ備考ニ其ノ理由年月日ヲ詳記スヘシ

會計課ハ修理ノ見込ナキ物品ノ返付ヲ受ケタルトキハ成規ニ依リ毀損ノ經伺ヲナシ物品出納簿ヨリ控除シ不用品ニ屬スルモノハ之ヲ審査シ尙使用ニ堪ユヘキモノハ之ヲ保存シ